

令和3年度 教育委員会  
自己点検・評価報告書

令和5年3月

香南市教育委員会

## 目次

点検及び評価の概要	1
自己点検及び評価の構成	2
1. 教育委員会の活動	3
(1) 教育委員会の会議	3
(2) 教育委員会と事務局との連携	3
(3) 教育委員の自己研鑽	3
(4) 支援・条件整備	3
(5) 広報・情報公開	4
2. 教育委員会が管理・執行する事務	9
(1) 香南市教育行政の基本方針を定めること	9
(2) 学校その他の教育機関の設置、廃止及び変更に関する事	9
(3) 教科用図書採択及び教材使用に関する事	9
(4) 教育委員及び事務局職員の任免その他の人事に関する事	9
(5) 香南市立学校教職員の異動方針・異動に関する事	9
(6) 教育委員会の附属機関等の委員の委嘱に関する事	9
(7) 教育予算その他、議会の議決を経るべき議案について意見を申し出ること	10
(8) 児童生徒の就学すべき学校の校区を設定し、又はこれを変更すること	10
(9) 教育委員会条例・規則等の制定又は改廃に関する事	10
(10) 議会の議決を経るべき議案の原案決定に関する事	10
3. 管理・執行を教育長に委任する事務	11
(1) 生きる力を育む就学前・学校教育の推進	11
1) 保幼小中連携（一貫）教育の推進	11
2) 家庭や地域と連携した教育の推進（チーム学校の取組）	12
3) これからの社会を生き抜く力を育む教育の推進	17
4) きめ細かな教育の推進	24
5) 安全な教育環境での教育の推進	27
(2) いきいきと学ぶ生涯学習の推進	30
1) 生涯にわたり豊かな心を育む環境づくり	30
2) 文化の継承と振興	34
3) 生涯にわたり親しみ高めあうスポーツの振興	36
4. 成果指標の点検・評価結果一覧表	38
5. 成果指標の点検・評価結果	42
6. 学式経験者からの意見	76

## 点検及び評価の概要

地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、すべての教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行状況について点検・評価を実施することが義務づけられました。

教育委員会制度は、首長から独立した合議制の教育委員会が決定する教育行政に関する基本方針のもと、教育長及び教育委員会事務局が広範かつ専門的な具体の教育行政事務の効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任があります。

このため、教育委員会の運営及び事務局の事務執行の状況について、学識経験を有する者の知見の活用を図りつつ点検・評価を行うこととし、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならないとされました。

本報告書は、香南市教育振興基本計画後期計画及び令和3年度香南市教育行政方針と対比し、計画の目標指標や方針に対しての達成状況を明確にすることで、具体的に達成状況が判断できるようにしました。

また、点検・評価は、客観性を確保するため学識経験者の意見・助言を受け、教育委員会で審議し、「令和3年度教育委員会自己点検・評価報告書」としてまとめ公表することとします。

## 自己点検及び評価の構成

### 1) 項目

自己点検・評価は、「1. 教育委員会の活動」、「2. 教育委員会が管理・執行する事務」、「3. 管理執行を教育長に委任する事務」の3つの大項目で構成し、必要に応じて細分化し、項目毎に点検・評価を行いました。

### 2) 目標、重点取組事項

令和3年度香南市教育行政方針を基に「目標」及び「重点取組事項」を記載しています。

### 3) 取組の概要

各項目の目標達成に向けて、令和3年度に実施した主な取組を記載しています。

### 4) 成果、課題

令和3年度に実施した主な取組の成果と今後の課題や取組の方向性を記載しています。

### 5) 点検・評価の方法

点検・評価にあたっては、「香南市教育振興基本計画後期計画」における成果指標について、令和3年度の施策の進捗状況や今後の課題等を項目ごとに評価し、4段階評価を行いました。評価の判断基準は次のとおりです。

評 価	判 断 基 準
A	目標・計画どおりに取組を実施し、充分成果がでている。
B	目標・計画どおりに取組を実施し、ある程度成果がでている。
C	目標・計画どおりに取組を実施したが、あまり成果がでていない。
D	目標・計画どおりに取組を実施できなかった。

### 5) 学識経験者からの意見

本市の教育について、学識経験を有する方からご意見、ご助言をいただきました。

氏 名	役 職
中村 直人	高知工科大学教授

# 開かれた教育行政をめざして

## 1. 教育委員会の活動

### [目標]

1. 開かれた教育行政の充実に努める。
2. 教育委員会、事務局、学校その他の教育機関との連携を密にし、情報意見交換を積極的に行い、円滑な教育行政の推進に努める。
3. 教育委員は、学校行事や学校訪問等の様々な機会を捉えて、保護者や地域、教育現場の意見等を聴き、課題を把握し、教育施策に反映するよう努める。

### (1) 教育委員会の会議

#### ①開催状況

会議名	回数	議案件数	報告等件数
定例会	12回	75件	42件
臨時会	2回	12件	2件
計	14回	87件	44件

#### ②運営上の工夫

議案・資料を事前に配布し内容を確認したうえで、積極的な意見交換が行えるよう努めた。また、余裕のある会議時間を設定し十分な審議が出来るように努めた。

### (2) 教育委員会と事務局との連携

適宜、協議や意見交換を行いながら、一層の連携が図れるよう努めた。

### (3) 教育委員の自己研鑽

国や県の動向を踏まえ、今日的な教育に関する課題や教育の実態をテーマとした教育委員の研修会に積極的に参加するよう努めた。

\*高知県市町村教育委員会連合会研修会（オンライン研修）

### (4) 支援・条件整備

#### ①学校訪問・支援

教育委員会による計画訪問については、新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から参加人数の縮小や時間短縮などの対策を講じたうえで市内すべての公立保育所、幼稚園、小学校、中学校、総合子育て支援センター及び私立認定こども園で実施し、現状における学校等への新型コロナウイルス感染症の影響の確認、具体的な感染防止対策の確認、感染症対策の課題などの協議を行った。また、学校等の経営や教育・保育内容に対する助言・指導を行うとともに、課題解決に対する支援を行った。

訪問日	保育所名
R3. 6. 16	野市保育所
R3. 6. 22	赤岡保育所
R3. 6. 25	香我美おれんじ保育所
R3. 7. 21	夜須保育所
R3. 10. 13	野市東保育所
R3. 10. 20	佐古保育所
R3. 10. 21	吉川みどり保育所

訪問日	幼稚園名
R3. 7. 1	香我美幼稚園
R3. 7. 2	野市幼稚園
R3. 10. 4	のいち幼稚学園
R3. 10. 7	野市東幼稚園
R3. 10. 15	夜須幼稚園

訪問日	小学校名
R3. 5. 26	夜須小学校
R3. 6. 17	赤岡小学校
R3. 6. 18	佐古小学校
R3. 6. 28	香我美小学校
R3. 6. 29	吉川小学校
R3. 7. 8	野市小学校
R3. 10. 14	野市東小学校

訪問日	中学校名
R3. 5. 25	野市中学校
R3. 5. 31	赤岡中学校
R3. 6. 21	香我美中学校
R3. 11. 11	夜須中学校

訪問日	施設名
R3. 10. 28	子育て支援センター「にこなん」

## ②所管施設訪問・支援等

新型コロナウイルス感染症の影響により、所管施設のほとんどの行事が中止又は縮小となり、行事参加等ができなかった。

## (5) 広報・情報公開

広報「こうなんNOW」による情報発信を行った。

掲載月	内 容
4月号	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 卒業式 (小中学校)</li> <li>* 第15回香南市美術展覧会</li> <li>* まちの話題「東の子ども応援隊」</li> <li>* 野市地区高齢者学級・中央生活学級 (演劇「カチカチ山」)</li> <li>* 高齢者生涯学習講座の受講生の募集</li> <li>* 2021年度成人式実行委員会委員の募集</li> <li>* 令和3年度中央生活学級生の募集</li> <li>* 公民館教室のお知らせ</li> <li>* 野村長平企画展</li> <li>* 宇多の松原 (続編) の刊行</li> <li>* 図書館特集: もっとエンジョイ図書館ライフ</li> <li>* 文芸 (野市短歌会)</li> <li>* としょかんナビ</li> </ul>

5月号	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 香南市人生支援計画 (日本語教室の開催に向けてのニーズ調査)</li> <li>* 入学式</li> <li>* 新教育委員任命のお知らせ</li> <li>* 安岡家住宅一般公開の案内</li> <li>* 公民館教室のお知らせ</li> <li>* 野市図書館「庭読」イベントのお知らせ</li> <li>* 教育委員会の取り組み</li> <li>* 令和2年度香南市スポーツ賞</li> <li>* 文芸(たちばな会)</li> <li>* としょかんナビ</li> </ul>
6月号	<ul style="list-style-type: none"> <li>* まちの話題(無人島長平没後200年祭、安岡章太郎文学碑「流離譚」除幕式、香我美幼稚園へ鯉のぼり寄贈)</li> <li>* 公民館教室のお知らせ</li> <li>* 文芸(花野句会)</li> <li>* としょかんナビ</li> </ul>
7月号	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 香南BIGカーニバル「子育て応援チケット」</li> <li>* 夏ナビ(夏休み子ども教室の案内、図書館のイベント案内)</li> <li>* 第15回香美・香南地区短詩型文学振興大会作品募集</li> <li>* 子ども司書養成講座 受講者募集のお知らせ</li> <li>* 香南市こどもよさこい連合会踊り子募集のお知らせ</li> <li>* ファミリーサポートセンター「まかせて会員」さん募集</li> <li>* 無料教育相談のおしらせ</li> <li>* こども議会の開催の案内</li> <li>* のいちふれあいセンター開館25周年記念イベントのお知らせ</li> <li>* まちの話題(オキノタユウ(アホウドリ)とのふれあい教室)</li> <li>* 国指定重要文化財「安岡家住宅」を知っていますか?</li> <li>* 文芸(百人一首・短歌・俳句の会)</li> <li>* としょかんナビ</li> </ul>
8月号	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 公民館教室のおしらせ</li> <li>* 香我美図書館開館30周年記念講演会のおしらせ</li> <li>* 東京2020パラリンピック聖火リレー 採火した火展示</li> <li>* 学校閉庁日のおしらせ</li> <li>* いきいきセミナー延期のおしらせ</li> <li>* まちの話題(野市小学校聖火リレー)</li> <li>* 市長談話室(こうなん学校給食センター)</li> <li>* 文芸(吉川短歌をたのしむ会)</li> <li>* としょかんナビ</li> </ul>

9月号	<ul style="list-style-type: none"> <li>*第4回香南市こども議会</li> <li>*野市ジュニアバレーボールクラブ高知県大会優勝</li> <li>*オリンピックを応援！（スポーツ少年団香我美サッカー部）</li> <li>*安岡家住宅一般公開のおしらせ</li> <li>*公民館教室のおしらせ</li> <li>*スタインウェイピアノ試奏会のおしらせ</li> <li>*文芸（野市短歌会）</li> <li>*としょかんナビ</li> </ul>
10月号	<ul style="list-style-type: none"> <li>*まちの話題（土佐一弦琴教室）</li> <li>*香南 BIG カーニバル「子育て応援チケット」利用期間の延長のおしらせ</li> <li>*夜間中学の生徒募集のお知らせ</li> <li>*ファミリーサポートセンター「まかせて会員」募集</li> <li>*特定教育・保育施設への入園・入所申込のおしらせ</li> <li>*公民館教室のおしらせ</li> <li>*のいちふれあいセンター開館 25 周年記念イベント 払戻のおしらせ</li> <li>*町民運動会中止のお知らせ</li> <li>*香我美図書館開館 30 周年記念イベントのおしらせ</li> <li>*令和4年度香南市成人式のおしらせ</li> <li>*野市図書館「わくわく読読のいち図書館」イベント</li> <li>*各地区文化祭のおしらせ</li> <li>*文芸（花野句会）</li> <li>*としょかんナビ</li> </ul>
11月号	<ul style="list-style-type: none"> <li>*香南市地域おこし協力隊奮闘記（マリンスポーツ推進）</li> <li>*安岡家住宅一般公開ご案内</li> <li>*第16回香南市美術展覧会のおしらせ</li> <li>*公民館教室のおしらせ</li> <li>*中央公民館公演チケット払戻し手続きについて</li> <li>*外国人の方へアンケート調査協力をお願い</li> <li>*がんばりゆう記（ホクラニフラスタジオ ホアロハ野市教室）</li> <li>*文芸（百人一首・短歌・俳句の会）</li> <li>*としょかんナビ</li> </ul>
12月号	<ul style="list-style-type: none"> <li>*香南市木育への取り組み（保育所、幼稚園、中学校）</li> <li>*こうなんキッズ（夜須幼稚園児のこうなん学校給食センター見学）</li> <li>*教育委員会からのおしらせ（入学通知書の送付、就学援助費申請の受付、児童クラブの申込の案内）</li> <li>*文化財めぐり参加者の募集について</li> <li>*公民館教室のおしらせ</li> </ul>



	<ul style="list-style-type: none"> <li>*野市図書館「しおり総選挙」作品募集</li> <li>*野市図書館「東京オリンピックミニ企画展」開催のおしらせ</li> <li>*第15回香南いきいきセミナーのおしらせ</li> <li>*文芸（吉川町短歌をたのしむ会）</li> <li>*としょかんナビ</li> </ul>
1月号	<ul style="list-style-type: none"> <li>*こうなんキッズ （野市東小 第24回児童生徒文学作品朗読コンクールで入賞）</li> <li>*公民館教室のおしらせ</li> <li>*ファミリーサポートセンター交流会</li> <li>*2021年度読書ボランティア養成講座募集</li> <li>*宝くじの助成金で百手祭の衣装を購入しました</li> <li>*香南市駅伝、まちの文化祭のおしらせ</li> <li>*第16回香南市美術展覧会</li> <li>*香我美図書館開館30周年記念講演会のおしらせ</li> <li>*文芸（野市短歌会）</li> <li>*としょかんナビ</li> </ul>
2月号	<ul style="list-style-type: none"> <li>*成人式</li> <li>*岡本弥太祭</li> <li>*こうなんキッズ（野市中 廃品回収と正面玄関花植え）</li> <li>*公民館教室のおしらせ</li> <li>*ZUMBA体験 in マリンホール</li> <li>*よしもとお笑いライブ in 夜須2022</li> <li>*香我美お宝人物展のおしらせ</li> <li>*香南市の中世石仏群を考えるイベントのお知らせ</li> <li>*がんばりゆう記（養生体操の会）</li> <li>*赤岡中学校生徒会 古民家清掃ボランティア</li> <li>*文芸（花野句会）</li> <li>*としょかんナビ</li> </ul>
3月号	<ul style="list-style-type: none"> <li>*まちの話題（第43回香我美町駅伝大会、新正凧揚げ大会、百手祭、「安岡家住宅」消火訓練）</li> <li>*第21回岡本彌太文学賞表彰</li> <li>*安岡家住宅一般公開のおしらせ</li> <li>*安岡家住宅一般公開ボランティアガイド募集</li> <li>*公民館教室のおしらせ</li> <li>*令和5年以降の香南市成人式について</li> <li>*夜須公民館体験イベント あそぼうやすラボ</li> <li>*児童クラブ-支援員さんの放課後みまもり隊</li> <li>*文芸（百人一首・短歌・俳句の会）</li> <li>*としょかんナビ</li> </ul>

## 【評価】

教育委員会の開催にあたっては、議案・資料を遅くとも会議3日前までに配布して内容の事前確認を行うとともに、余裕のある会議時間を設定することにより、積極的な意見交換が図られ充実した審議が行われた。

教育委員の研修については、新型コロナウイルス感染症の影響により、計画されていた研修が中止や規模縮小となった。オンラインによる研修機会も徐々に増え、庁舎等のICT環境も整備されてきたことから、今後は積極的にオンライン研修へも参加していく。

教育委員会の活動や取組について、広報誌やホームページに掲載しているが、行事やイベント等の情報が多くなっており、その他の活動や取組についてより積極的に情報発信を行っていく必要がある。

## 2. 教育委員会が管理・執行する事務

### [目標]

議案を研究・精査し、適切な処理に努める。

#### (1) 香南市教育行政の基本方針を定めること

香南市教育振興基本計画後期計画に基づき「令和3年度教育行政方針」を定めた。

教育行政方針について、教職員総会で周知徹底を図る予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となったため、資料の配布及び動画により周知を行った。

#### (2) 学校その他の教育機関の設置、廃止及び変更に関すること

令和3年度は、該当案件はなかった。

#### (3) 教科用図書の採択及び教材使用に関すること

令和4年度以降に使用する公立中学校教科用図書を採択した。

#### (4) 教育委員及び事務局職員の任免その他の人事に関すること

教育委員会の意向を反映した人事配置がなされた。

\* 香南市教育委員会の所管に属する機関の会計年度任用職員の任用について

(令和3年第6回教育委員会定例会)

\* 令和3年7月1日付け香南市教育委員会事務局職員の人事異動について

(令和3年第8回教育委員会臨時会)

\* 香南市立保育所・幼稚園職員人事異動方針について

(令和4年第3回教育委員会定例会)

\* 令和4年4月1日付け香南市教育委員会事務局及び保育所・幼稚園職員の人事異動について

(令和4年第4回教育委員会臨時会)

#### (5) 香南市立学校教職員の異動方針・異動に関すること

高知県教育委員会及び香南市教育委員会の異動方針に基づき配置がなされた。

\* 教職員の人事異動の内申について

(令和4年第3回教育委員会定例会)

#### (6) 教育委員会の附属機関等の委員の委嘱に関すること

担当課からの推薦等に基づき、教育委員会で審議し委嘱がなされた。

\* 香南市マリンスポーツ振興協議会委員の委嘱について

(令和3年第5回教育委員会定例会)

\* 香南市立小中学校における学校運営協議会委員の委嘱について

(令和3年第6回教育委員会定例会)

\* 香南市立保育所における保育所評議員の委嘱について

(令和3年第6回教育委員会定例会)

- \* 香南市立幼稚園における学校評議員の委嘱について  
(令和3年第6回教育委員会定例会)
- \* 香南市社会教育委員の委嘱について  
(令和3年第7回教育委員会定例会)
- \* 香南市生涯学習施設運営審議会委員の委嘱について  
(令和3年第7回教育委員会定例会)
- \* 香南市補導センター運営委員会委員の委嘱について  
(令和3年第7回教育委員会定例会)
- \* 香南市教育振興基本計画推進協議会委員の委嘱について  
(令和3年第9回教育委員会定例会)
- \* 香南市スポーツ推進委員の委嘱について  
(令和4年第2回教育委員会定例会)
- \* 香南市文化財保護審議会委員の委嘱について  
(令和4年第3回教育委員会定例会)
- \* 香南市中央公民館運営委員会委員の委嘱について  
(令和4年第3回教育委員会定例会)
- \* 香南市中央公民館運営協力員の委嘱について  
(令和4年第3回教育委員会定例会)

(7) 教育予算その他、議会の議決を経るべき議案について意見を申し出ること

令和3年度は、事務局提案以外で市長への意見具申はなかった。

(8) 児童生徒の就学すべき学校の校区を設定し、又はこれを変更すること

令和3年度は、当該案件はなかった。

(9) 教育委員会規則等の制定又は改廃に関すること

①規則

香南市教育支援委員会規則について 外7件

②告示・訓令

香南市指定校の変更に関する事務取扱要綱の一部を改正する告示について

外32件

(10) 議会の議決を経るべき議案の原案決定に関すること

香南市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について 外8件

#### 【評価】

教育委員会が管理・執行する事務について、関係する法律等の規定に基づき適正な事務が行われている。

### 3. 管理・執行を教育長に委任する事務

#### (1) 生きる力を育む就学前・学校教育の推進

##### 1) 保幼小中連携（一貫）教育の推進

###### 重点取組事項

###### ①保幼小中連携（一貫）教育の推進

###### ①保幼小中連携（一貫）教育の推進

###### 【取組の概要】

- ◇「香南市保幼小中連携カリキュラム」及び「香南市保幼小中連携（一貫）プログラム」に基づく保幼小中連携（一貫）教育を推進し、子どもたちが保育所・幼稚園から小学校へ、小学校から中学校への接続を円滑にするとともに、「コミュニケーション能力」「規範意識」「自尊感情」を高めるよう努めた。
- ◇香南市保幼小中連携子育て・教育推進事業（9の事業）のねらいに沿った取組を計画的に進めた。
- ◇香南市保幼小中連携子育て・教育推進事業の進行管理・指導、成果・課題等を協議し、子育て・親育ちの推進を図った。
- ◇子どもたちの基本的な生活習慣や自己肯定感等、人としての素養を育成するとともに、併せて親として望ましい子育てを支援した。
- ◇中学校区連携推進研究事業として、各中学校区の教育課題解決に向けて、外部専門講師を招聘するなどして、保幼小中が連携しながら実践的研究を推進した。
- ◇小学校4、5、6年生への専科制や小・中学校間の授業相互乗り入れを実施し、小・中学校を通じた連続性のある教育を行い、学力向上や生徒指導上の諸課題の解消に努めた。
- ◇香南市教育研究所を中心に、学校と連携した効果的な授業研究や校内研修を推進するとともに、教職員を対象に保幼小中・家庭・地域連携（一貫）教育に関するアンケート調査を実施した。

###### 【成果】

- ◇中学校区連携部会では、新型コロナウイルスの影響を受け、例年通りの取組は実施できなかったが、どの中学校区でもできる範囲での取組を実施できた。また、直接対面による合同研修、合同授業研の実施は困難となったが、その分ICT機器を活用した研修会や交流学习等を行うなど、新たな実施方法での取組が進展し、資質向上が図られた。
- ◇令和3年度の道徳意識調査において、「学校の規則を守っている」の項目では、小学校及び中学校ともに93～97%台で推移しており、規範意識についても、中学校区の保幼小中が連携し、継続して取り組んできた成果が表れている。

###### 【課題・方針】

- ◇市内全小学校6年生を対象としたアンケート結果より、「中学校に入学することで楽しみにしていることがありますか」の質問項目において「ある」と答えた児童が昨年度と比較して微増した。また、「中学校入学にあたり、心配なことはありますか」との質問項目において「ない」と答えた児童についても微増した。心配のある内容として、「友達」が昨

年度と比較して、3%増加している。今後も引き続き、児童生徒間の交流を含め、中学校との連携の充実を図る。

- ◇第2期香南市教育振興基本計画や香南市保幼小中連携カリキュラムに沿った0歳から15歳までの系統的な育ちや学びに取り組み、香南市が目指す子どもの育成を目指す。
- ◇中学校区ごとで共通した取組や独自の取組を継続的に行い、連携から接続という視点を踏まえた質的向上を図る。
- ◇令和3年度の道徳意識調査において、「自分には、よいところがあると思う」の項目では、小学校、中学校ともに上昇が見られた。小学校では昨年度と比べ78.7%から83.4%と4.7%上昇した。また、中学校では令和2年度末と比較すると69.3%から10%の上昇が見られた。今後もボイスシャワーや互いのよさを認め合う取組など、各校がこれまで行ってきたことを今一度、価値づけや意味づけし、子どもを勇気づけるような働きかけを継続していく必要がある。

### 【評価】

新型コロナウイルス感染症予防対策を第一に考え、保幼小中の交流活動については、例年通りの実施は難しかった。実際に訪問して交流するという直接対面ではなく、手作りおもちゃのプレゼントや手紙や動画でのやりとりなど、間接的ではあるが、昨年度からICT機器を活用するなどでき得る形式での実施が行えた。昨年度に引き続き、ICT機器を活用したオンライン形式による取組が拡充し、ICT機器活用が増え、教職員の運用技術が向上した。

## 2) 家庭や地域と連携した教育の推進（チーム学校の取組）

### 重点取組事項

- ①厳しい環境にある子どもたちへの支援
- ②学校の組織マネジメント力の強化
- ③不登校の改善
- ④子どもが育ちやすい地域コミュニティの再構築
- ⑤家庭の教育力の向上
- ⑥放課後の子どもの生活・学習支援の充実

### ①厳しい環境にある子どもたちへの支援

#### 【取組の概要】

- ◇チャレンジ塾等の学習機会を充実し、子どもの育ちを促し、学力向上につながる取組の充実を図った。
- ◇経済的に厳しい児童生徒の給食費や学用品費などの費用を援助した。
- ◇保護者を対象とした子育て講演会を実施し、家庭教育力の向上を図った。

## 【成果】

- ◇チャレンジ塾は前年度より開設箇所を増やし3箇所で開催した。学習機会を設けることにより、学習内容だけでなく学習習慣定着へのきっかけづくりや進路への意欲づけにつなげることができた。
- ◇スクールソーシャルワーカーの活用などにより児童生徒と学校、家庭間の情報共有や連携をすすめることができ、児童生徒への支援につなげることができた。
- ◇就学援助制度などについて学校との連携や協力により、制度の周知徹底や該当もれを防ぐための取組が推進できた。
- ◇総合子育て支援センターにおいて就学前の子どもを持つ保護者を対象とした講演会を実施し、家庭教育力の向上が図れた。

## 【課題・方針】

- ◇就学援助制度について、ホームページや学校を通じて保護者に周知を図り、支援が必要な家庭に援助が行き届くように取組を進める。
- ◇チャレンジ塾は、今後も継続して開設していく。今後、各中学校区ごとに開設し、受講の希望者が利用しやすい環境を整える。
- ◇子育て相談会の内容について、マンネリ化しないよう企画し、更に周知方法を拡大して参加者を増やしていく。

## ②学校の組織マネジメント力の強化

### 【取組の概要】

- ◇学校経営計画をもとに、取組状況や成果を点検・検証し外部の専門家や地域の人材の力を活用しながら取組を推進した。
- ◇所属長会・副所属長会などにおいて、必要に応じ研修を実施し、資質の向上に努めた。
- ◇個々の教員の授業力向上を図るとともに、全教職員が教科の壁、学級や学年の壁を越えて相互に協議し、組織的な授業改善や生徒指導につなげた。
- ◇研究主任や情報教育担当者など、各教職員が個々の役割を十分に理解し、力を発揮する学校づくり推進のため、各担当者会を実施した。

## 【成果】

- ◇組織マネジメントの考え方や研修内容が、各学校で定着している。
- ◇学校経営計画に沿って運営が行われ、PDCAサイクルを活用した検証・改善の流れが教職員の間で定着してきた。
- ◇校務分掌に沿った実践が行われ、担当教員が与えられた役割を果たすシステムが定着している。
- ◇学校が抱える課題に対して、教職員個々の力量に頼るのではなく、ライン機能やチーム機能を発揮し、学校組織として対応する姿が見られ、さまざまな場面で課題解決へとつながっている。

## 【課題・方針】

- ◇教員数の多少も伴って、学校によっては、まだまだ運営面で教員の個々の力量に頼る部分が残されている。学校規模に応じた組織機構に基づきチーム学校の考え方や取組を浸透させ、PDCAサイクルを回しながら今後も改善に努めることで、組織マネジメント力の強

化を目指していく。

- ◇各種学力調査を基に、課題対してPDCAサイクルに基づきながら、学校全体が組織として取り組むことで、安定した成果につなげていく。

### ③不登校の改善

#### 【取組の概要】

- ◇スクールソーシャルワーカーを配置し、保育所・幼稚園・学校と教育支援センター「森田村塾」、医療や福祉等の関係機関と連携を図り、子どもや保護者に対する支援の充実を図った。
- ◇さまざまな要因で悩みを抱える子どもや保護者、教職員への教育相談（こども相談室・ほのぼの相談）や校内支援会の実施、スクールカウンセラー等の配置など、支援体制の充実を図った。
- ◇教育支援センター「森田村塾」において、不登校等の子どもの居場所づくりを充実するとともに、学校との連携を密にし、学校生活への復帰を支援した。
- ◇子どもたちが、安心して学校生活をおくることができるように、各学校が、児童生徒理解を深め、温かい学級づくりに取り組めるようQ-Uアンケートやいじめ調査等を実施し、その活用を促進した。
- ◇森田村塾にアウトリーチ型スクールカウンセラーを配置し、各家庭等への訪問支援を行い、きめ細やかな対応を行った。

#### 【成果】

- ◇国の指定であった「魅力ある学校づくり調査研究事業」の取組を継続し、市内各校で担当者を中心に不登校児童生徒を発生させない学校・学級づくりに向けて取組を進めることができた。また、不登校児童生徒に対しては、学校やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、教育支援センター、関係機関が互いに連携し合い、改善に向けて継続的に取り組むことができた。
- ◇スクールソーシャルワーカーの連絡会を定期的に行い、事例対応などへの検討を行ったり、スキルアップにつなげるため相互アドバイスなどを行ったりすることにより、児童生徒や家庭への支援の充実につながった。
- ◇教育相談などの支援制度を活用し、学校が課題としていることなどに対して支援ができた。

#### 【課題・方針】

- ◇幼保小中連携モデル地域実践研究事業を受け、魅力ある学校づくり調査研究事業の基本的な考え方を、全ての学校が取入れ継承していくことで、不登校の状態にある児童生徒への支援の充実を図る一方で、新たな不登校を生まない取組をより一層進めていく。
- ◇教育支援センター「森田村塾」のより有効的な運営について協議し、スクールソーシャルワーカーとも連携して不登校児童生徒への支援を充実させる。

### ④子どもが育ちやすい地域コミュニティの再構築

#### 【取組の概要】



- ◇積極的な情報発信や学校評価の実施により、地域に根ざした特色ある学校づくりに努めた。
- ◇すべての小・中学校で地域学校協働本部事業に取り組んだ。  
(本部9箇所：夜須中学校区、赤岡小学校、吉川小学校、野市東小学校・野市小学校・佐古小学校・赤岡中学校・香我美中学校区・野市中学校)
- ◇コミュニティ・スクール実施（市内全小中学校）
- ◇こうなんファミリーサポートセンター事業により、安心して子育てができるような住民同士の相互援助活動の取組を進めた。
- ◇子育て情報を得る手段としてインターネットの活用が高まっており、市の子育て情報サイト「香南キッズ」の周知を進めた。

### 【成果】

- ◇地域学校協働本部事業により、香南市全域で地域と連携した教育を推進することができた。また、地域学校協働本部の中でも、学校と地域が定期的な協議の場を確保した。民生委員・児童委員の参画による子どもたちの見守り体制を有した高知県版地域学校協働本部へ新たに2本部が移行し、9本部の全てが移行した。
- ◇仕事と育児の両立を支援し、安心して子育てができる環境づくりを充実させるため、こうなんファミリーサポートセンター事業を実施して、子育てを住民同士が協力・支援する取組を進めることができた。
- ◇妊娠が分かった時から就学期までの、助成制度や子育て支援制度、子育ての悩み事や困った時の相談先、子育て関連情報をインターネット上のサイトで見やすくまとめて掲載した。

### 【課題・方針】

- ◇コミュニティ・スクールの実施により、運営協議会と地域学校協働本部の連携を更に進め、厳しい環境に置かれている子どもたちを見守ることのできる体制の構築を進めるとともに、地域に開かれた特色のある学校づくりの構築を進める。
- ◇こうなんファミリーサポートセンター事業の実施にあたっては、ボランティアである「まかせて会員」のなり手が不足しているため、社会福祉協議会と協働して、子育てに関して経験豊富な保育士OBに声かけを行うなど受け皿となる「まかせて会員」の確保に努める。
- ◇スマートフォンアプリ「LINE」を活用した市のHPと連動した情報発信ツールの普及と合わせてサイトの周知を図っていく。

## ⑤家庭の教育力の向上

### 【取組の概要】

- ◇子育て講座などを開催し、家庭の教育力向上を図るとともに、子育て支援センターの充実やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの活動を通して、さまざまな不安や悩みを持つ保護者に対する子育て相談や援助などを行った。
- ◇子どもたちの基本的な生活習慣を身に付けさせ、自尊感情等を育成するため、親として望ましい子育てについて啓発を行うとともに、絵本の読み聞かせ等を通じた親子のふれあいを支援した。

## 【成果】

◇スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの協力を得ながら、保護者に対する支援が充実してきている。

## 【課題・方針】

◇家庭の教育力の向上を目指し、子育て相談や講演会の開催など保護者支援を充実させていく。

## ⑥放課後の子どもの生活・学習支援の充実

### 【取組の概要】

◇地域学校協働本部事業等により支援員を配置し、小・中学校で放課後学習に取り組んだ。  
◇子どもたちの健やかな育ちと豊かな学びを支援するため、放課後児童クラブ、放課後子ども教室の支援員等の研修機会を確保し、資質向上を図った。

＊放課後児童支援員認定資格研修（４名）

＊放課後児童支援員研修（１２回、延べ９９名）

◇生活学習支援員を配置し、放課後学習を行うことにより基礎学力の定着を図った。

### 【成果】

◇年間を通して学習支援者を配置し、継続的に学習をサポートすることで、放課後の学習習慣が定着してきた。

◇研修に参加することで、職務を遂行するうえで必要な知識及び技能の習得と、その実践の基本的な考え方や心得を学ぶことができた。

### 【課題・方針】

◇子どもの居場所を確保する上で、放課後児童クラブや放課後子ども教室の果たす役割は大きい。子どもの生活や学習支援の充実を図る上でも、支援員への研修の機会を確保し支援の質的向上を目指していく。

◇放課後児童クラブ支援員の研修機会の確保、参加により、さらなる資質向上及びスキルアップを図る。

◇児童クラブの安定した運営のため、放課後児童支援員の人員確保を進めていく。

### 【評価】

新型コロナウイルスの影響により、実施できなかった取り組みは多いが、工夫によりできる限りの取り組みを進めた。また、直接対面への規制があった分、ICT機器を活用した実施方法での取組が進展し、資質向上が図られた。

組織マネジメントの考え方や研修内容が定着してきている。これにより、学校が抱える課題に学校全体として対応し、組織的な課題解決へとつながっている。また、不登校児童生徒に対しては、学校、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、教育支援センター、関係機関が互いに連携し合い、改善に向けて継続的に取り組むことができた。

今後は、中学校区ごとで共通した取組や地域性を活かした独自の取組を継続的に行い、連携から接続への質的向上を図り、すべての子どもにとって「心の居場所」、「絆づくりの場」となる「魅力ある保育所・幼稚園・学校」を全職員でつくっていくことが求められる。併せて、運営協議会と地域学校協働本部の連携を更に進め、厳しい環境に置かれている子どもたちを見守ることのできる体制の構築を進める。

### 3) これからの社会を生き抜く力を育む教育の推進

#### 重点取組事項

- ①就学前教育の充実
- ②確かな学力の育成
- ③学習活動におけるICT活用の推進
- ④豊かな心の育成
- ⑤キャリア教育の推進
- ⑥人権教育の推進
- ⑦健やかな体の育成と健康の増進
- ⑧特別支援教育の推進

#### ①就学前教育の充実

##### 【取組の概要】

◇日常的な保育所・幼稚園経営に係る諸問題について研修を深め、その望ましい解決策等を探り、管理職としての経営能力の向上を図った。

＊副所属長研修（1回、11名）

◇就学前教育の中核を担う副所属長・中堅保育者の合同研修として、虐待防止に関する研修を実施し、専門性の向上を図った。

＊副所属長・中堅保育士研修（1回、22名）、

その他、各保育所幼稚園園内研修会（68回、581人）、

研究主任会（3回、39人）、特別支援保育・教育研修会（2回、65人）

◇総合子育て支援センター「にこなん」に保護者支援相談員を配置し、さまざまな悩みや課題を持つ保護者に対する子育て相談・指導などを行い、子育て支援に努めた。

◇市内7保育所、4幼稚園、総合子育て支援センターを会場に、就学前の子どもを持つ保護者を対象に講演会や親子ふれあい遊びなど情報や知識だけでなく親子で楽しく遊んだりリフレッシュできるプログラムを企画し実施した。

＊安心子育て応援事業（保幼合計12回、184名）

◇県指定のブロック別研修会を香我美おれんじ保育所で9回、フォローアップ研修を香我美幼稚園で7回行い、年間を通した研修により職員の資質向上に努めた。

##### 【成果】

◇新型コロナウイルス感染症によりICT機器を活用したオンライン形式による研修会を活用し、年間を通した研修保育や様々な研修会を通して、保育者の資質、専門性の向上と保育の充実につながった。各保育所、幼稚園で実践につながる研修を主体的に計画し実践することができた。

◇県指定のブロック別研修及び次年度のフォローアップ研修を行い、香南ブロックにおける主体的な実践研修のためのネットワーク化の推進とミドルリーダーの育成に努めた。また、園の組織力アップを図り保育者の資質向上と保育の充実につながった。

##### 【課題・方針】

◇今後も年間を通して計画的に研修を実施し、保育者の資質向上と保育の充実を図る。

## ②確かな学力の育成

### 【取組の概要】

- ◇子どもたちが学習の意義や大切さに気づき、自ら進んで取り組み、考え行動できる学習活動を推進するため「できる・わかる・楽しい授業」の取組を全校で行った。
- ◇到達度把握調査（標準学力調査）を小学校2年生から中学校3年生まで実施し、結果分析をするとともに、分析に基づく授業改善に努めるよう各校に通知した。また、学力分析シートに基づく、学力向上に向けた検証・改善サイクルが機能するよう指導支援を行った。
- ◇各小学校の実態に応じて非常勤講師を配置し、専科の教員による専門性の高い授業を行った。（非常勤講師3名）
- ◇すべての学校に生活学習支援員を配置し、通常学級で支援が必要な児童生徒への学習支援を行い学びの保障に努めた。（生活学習支援員11名）
- ◇野市小学校・香我美小学校・佐古小学校・野市中学校の「『高知の授業の未来を創る』推進プロジェクト事業における授業づくり講座」、野市小学校・野市中学校を拠点校とした「メンター制を活用した人材育成実践研究事業」、野市東小学校・野市小学校・佐古小学校の「小学校教科担任制実践研究校事業、香我美中学校の「高知県人権教育研究推進事業」、野市小学校の「夢・志を育む学級運営のための実践研究事業」、野市中学校の「不登校担当教員配置校サポート事業」、香我美中学校・赤岡中学校・野市中学校の「未来を創る中学校授業づくり推進ティーチャー育成事業」、野市中学校の「中学校組織力向上のための実践研究事業」、香我美小学校・野市東小学校・野市小学校・佐古小学校・香我美中学校・野市中学校の「スクールサポートスタッフ配置事業」、野市小学校の「小学校英語専科指導指定校事業」、野市中学校の「運動部活動指導員配置促進事業」に取り組んだ。
- ◇年間3回実施した外国語教育担当者会を活用し、英語教育拠点校事業を推進してきた佐古小学校の取組を広く紹介するなどして、新学習指導要領実施にそった小小連携・小中連携による小・中学校の英語教育の充実を図った。
- ◇外国語指導助手（ALT）を活用することにより、それぞれの発達段階に応じた外国語指導の充実と異文化理解を促進した。
- ◇中学校3年生を対象にチャレンジ塾を実施した。

### 【成果】

- ◇新型コロナウイルス感染症対策を講じた環境の中での授業が展開され、これまで以上にICT機器を有効に活用した授業実践が進んだ。
- ◇新型コロナウイルスの影響を受けたが、でき得る範囲で中学校区連携推進研究事業や各種学力調査の結果分析を活かして、15歳の出口を見据えた学力の定着に向けて、どのような力を付けるのか共通認識することができた。

### 【課題・方針】

- ◇令和3年度全国学力・学習状況調査は、国語科、算数・数学科において、小学校6年生、中学校3年生ともに、全国平均正答率をわずかに下回る結果であった。
- ◇標準学力調査、高知県学力定着状況調査結果の状況を踏まえ、各学校内だけではなく、中学校区も連携して、一層の学力向上に努めていく。
- ◇基礎基本の学力の定着はもちろんのこと、新学習指導要領における新しい学力観に沿って、確かな学力が子どもたちに身に付くよう、各種研修会等の質的な向上を目指し、取組

を推進する。

- ◇外国語教育や一人一台端末を活用した教育がより一層推進するよう、支援を行ったり研修の機会を設けたりしていく。
- ◇G I G Aスクール構想に伴う一人一台端末の整備によって、児童生徒の主体的な学習への転換を図り、学力向上につながるよう効果的な使用場面や方法の共有を図る。
- ◇国や県の指定事業を積極的に活用し、香南市の教育の向上を目指していく。

### ③学習活動におけるICT活用の推進

#### 【取組の概要】

- ◇児童生徒1人1台端末、電子黒板の整備を行った。
- ◇ICT機器を活用した授業に取り組んだ。
- ◇ICT支援員を配置し、各学校を支援した。
- ◇情報教育担当者会を開催した。

#### 【成果】

- ◇ICTを活用した授業として、児童生徒1人1台端末と電子黒板を活用した学習活動の展開の幅が広がってきている。
- ◇ICT支援員により、教材開発や効果的な活用のノウハウを広めている。
- ◇情報教育担当者会により、課題と実践の共有ができた。
- ◇教育情報セキュリティポリシーを策定した。

#### 【課題・方針】

- ◇ICTの活用は、かなりの広がりを見せているが、教員の得意・不得意に左右されているのも実態としてあるので、校内での情報共有とICT支援員の積極的な活用が一層求められる。
- ◇自宅への持ち帰り、長期欠席の児童生徒が自宅等で活用する事例も出てきているが、今後は家庭での活用についても研究と実践が求められる。

### ④豊かな心の育成

#### 【取組の概要】

- ◇各校の道徳教育推進教師による道徳教育担当者会を年間2回開催し新学習指導要領で教科化された「特別の教科 道徳」趣旨理解と評価方法などについて研修を行った。
- ◇道徳意識調査及びチェックシートを実施し、自尊感情や生活習慣、人間関係や規範意識、それぞれの高まり具合を継続的に調べ取り組みの指標とした。
- ◇学校図書館支援員を小・中学校に配置し、読み聞かせ、読書環境の整備、貸し出し業務などを行い、子どもたちが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力と創造力を豊かなものにする読書活動を推進した。
- ◇社会科副読本「香南のくらし」を活用して地域のくらしや歴史、文化について知識や経験を深める教育を推進した。

#### 【成果】

- ◇継続的に市ぐるみで授業改善の取り組みを進めたことにより、道徳の時間への意識が高まり、教師自身の苦手意識が軽減された。また、継続して講師招聘や校種間の連携をとるこ

とで、発達段階に応じた発問の設定や資料解釈ができ、めざす道徳の授業について研修を深めることができた。

- ◇社会科副読本「香南のくらし」の編集委員会では、前監修に携わった方を招聘し、「児童がいきいきと主体的に取り組む社会科学習」の講話をして頂き、子どもたちにとって興味関心が高まり、思考力を深めることができる授業構想になるよう協議を深めることができた。

#### 【課題・方針】

- ◇わがまちの道徳教育推進事業の流れを継続し、各学校における道徳の授業改善に努める。
- ◇社会科副読本「香南のくらし」のデジタル化に向け、中心となって作業を進める人員を配置し、子どもたちにとって興味関心が高まり、思考力が深めることができる副読本の作成を目指していく。

### ⑤キャリア教育の推進

#### 【取組の概要】

- ◇子どもの発達段階に応じて、家庭教育、幼児教育、学校教育、生涯学習（社会教育）が連携して、社会的・職業的自立に必要な基盤となる能力や態度を育成するとともに、将来の生き方を考え、自己実現が図れるように支援した。
- ◇キャリアパスポートを作成し、小・中学校9年間かけて、各学年で作成したキャリアシートがつながる取組を支援した。
- ◇地域のさまざまな人との交流をとおして体験的な職業理解、職場体験学習などを行うことで、仕事や社会人としての生き方について考え、将来に向けての自分らしい生き方に向かう態度を育てた。
- ◇地域の事業所などの協力を得て、中学生を中心として、職場体験学習を推進し、職業に関する理解を深めるとともに、地域社会を支える仕事や産業についての理解を深めた。

#### 【成果】

- ◇多くの学校で地域の人との連携や地域人材の活用をするなかで、児童生徒が地域の産業理解を深めたり、職業に関する知識を獲得し意識を高めたりすることを通して、自立意識の高揚につながられた。

#### 【課題・方針】

- ◇今後も地域住民や地域企業からの支援や協力を得ながら、多様な体験活動や職場体験学習の充実を図っていく。
- ◇子どもたちが就職する際に求められるであろう、「基本的な生活習慣の確立」「学力の定着」「社会性の育成」について、あらゆる教育活動において身につけることができるよう取組んでいく。
- ◇令和4年4月1日から成人年齢が18歳になったことを踏まえ、学習内容上は高等学校で主として扱うこととなっている消費者教育や法教育について、義務教育段階からそれらと近接する各教科等の指導に合わせ、キャリア教育で意識的に考える機会の設定が必要である。

## ⑥人権教育の推進

### 【取組の概要】

- ◇自尊感情を高め、互いを認め合い支え合う共感的な人間関係づくりや、人権に関わる課題の解決をめざした、一人ひとりを大切にす人権教育に取り組んだ。
- ◇各学校における人権教育全体計画、年間指導計画に基づき、11の課題について計画的、系統的に学習を展開するとともに、人権参観日等を実施し、保護者や家庭地域への普及・啓発を行った。

### 【成果】

- ◇各学校においては、児童生徒の実態に合わせ、計画、実践、評価、改善を繰り返し、人権意識が高まるような授業実践、教育活動が展開できた。

### 【課題・方針】

- ◇人権意識が高まり定着していくためにも、あらゆる教育活動を通して人権教育に取り組んでいく。
- ◇各学校で、いじめ問題など人権問題について全児童生徒で考える機会を設けていく。
- ◇児童生徒に身に付けさせたい力及び単元を通したゴールイメージをもった授業の展開を目指しているが、若年経験者教師の相対的な増加により、指導力のばらつきが見られた。

## ⑦健やかな体の育成と健康の増進

### 【取組の概要】

- ◇家庭や地域と連携して「早ね 早おき 朝ごはん」など基本的な生活習慣の定着を図るよう取り組んだ。
- ◇発達段階に応じた適切な性教育や保健安全指導を行い、健康づくりにおける自己管理能力の育成を図るよう取り組んだ。
- ◇望ましい食習慣の形成に向けた食指導や、市内全校で調理体験教室等を行い、食に関する意識啓発や調理技能の向上を図るとともに、地元食材を使った料理教室の実施などに取り組む予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、感染対策をしたうえでできる限り実施できるよう努めた。香南市食育推進計画に則り、食についての指導の充実に努めた。
- ◇保護者に献立表や給食だよりの配布を行い、望ましい給食への理解を得るよう努めた。  
(給食試食会は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。)
- ◇栄養教諭等による、食物の働きや栄養指導及び正しい食事のマナーの指導など食育の推進に努めた。
- ◇小学校5年生対象の朝食づくり教室、中学校1年生対象の弁当づくり教室は感染対策をしたうえで実施した。
- ◇旬の食材等、生産者の心のこもった安心・安全な地場産品を積極的に取り入れ、バランスのとれた献立を実施した。
- ◇保幼小中食育推進検討委員会では、各年齢に応じた食の取組が行われていることを情報共有し、成果を他の所属に広めることや共通の課題に対して積極的な討論がされ、「食育だよりの作成・配布を行った。

## 【成果】

- ◇朝食づくり教室及び弁当づくり教室の取組も定着してきた。また、いくつかの所属所では独自で食育に関する取組を実施した。
- ◇乳幼児期は保護者の影響を受けやすい時期なので、参観日や給食だより等を利用して、保護者への啓発を実施した。（給食試食会は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。）

## 【課題・方針】

- ◇令和3年度全国体力・運動能力・運動習得等調査結果を踏まえ、課題の見られた内容については、各学校と状況を共有し、改善に向けた取組を実施していく。
- ◇望ましい食習慣の確立や健康な体づくりを目指し、家庭や地域からの支援も受けながら食育を推進していく。
- ◇体育の授業での運動量を増やすなど、授業内容の見直しを行うとともに、授業前、授業間等の運動機会の確保、年間通じた取組の継続等、児童生徒の運動習慣の確立にも取組む。
- ◇香南市食育推進会議と一層の連携が図れるよう情報共有していく。
- ◇料理の機会や経験が少ない親が増えているため、そこに対しての意識付けが課題であり、今後も、保育・幼稚園等と連携した食育事業、健康対策課によるパパママ教室や乳幼児健診での指導、総合子育て支援センターでの栄養相談を継続し、朝食摂取について更なる啓発を行っていく。

## ⑧特別支援教育の推進

### 【取組の概要】

- ◇障害のある子どもたちに適切な指導が行えるよう、教育環境を整備し、特別支援教育支援員の配置や教職員研修を充実するなど支援体制を整えた。（研修会：2回）
- ◇関係機関と連携して適切な就学指導を進め、障害の種類と特性に応じた教育課程の編成を行い、一人ひとりの教育的ニーズに応じた特別支援教育を進めた。
- ◇効果的な通級指導のあり方を研究し、ADHD（注意欠陥／多動性障害）やLD（学習障害）などの子どもたちの特性に対応した教育を推進した。
- ◇特別支援学校や専門機関との連携を進め、特別支援教育支援員を有効に活用しながら、一人ひとりの可能性を最大限に伸ばすことのできる取組を進めた。
- ◇就学前から特別な支援を必要とする子どもへの適切な指導援助を行うため、専門コーディネーターを配置し、教職員の資質向上に取り組むとともに、効果的に子どもの成長発達を支援することに努めた。
- ◇特別な支援を必要とする子どもに対する早期対応への取り組みとして「いきいき香南っ子相談事業」（就学前～小学校低学年対象）を実施した。就学への引継ぎも考え、年長組対象の相談には香南市特別支援教育アドバイザーやスクールソーシャルワーカーも出席している。（相談28回、フォローアップ27回）

## 【成果】

- ◇香南市特別支援教育アドバイザーによる各学校の巡回訪問では、特別支援教育の視点を踏まえた学校経営、学級経営の推進・充実に向け、指導・助言を行うことで、学校の支援体制の構築、充実を図ることができた。
- ◇教職員研修では、事例を基に具体的な話を講師の先生にして頂き、参加者は子どもへの関



わり方やユニバーサルデザインの視点に基づく授業づくりについて学ぶことができ、日々の指導に生かすことができている。

- ◇いきいき香南っこ相談事業では保育者や教職員の資質向上が図られ、保護者対応も含め個別の指導計画・環境調整など、計画的な特別支援保育・教育の取組となっている。
- ◇研修会では発達の特性とその理解に基づいた個別の指導計画の作成について学び合った。演習では実際に作成したものを交換し合うことを通して他の捉えや支援を知り、実践的な学びとなっている。
- ◇ティーチャーズトレーニングでは受講対象所・園を決めて実施し、子どもの行動の理解とその支援について共に学び特別支援保育・教育について同じ方向性を持つことで、園内の体制の強化や教職員の資質向上となっている。また、受講後3年間はこの学びの実践とケーススタディによるフォローアップを行い受講者のスキルアップとなっている。

#### 【課題・方針】

- ◇支援が必要な児童生徒への十分な支援が行えるよう、特別支援教育支援員の適切な配置をしていく。
- ◇教室環境を整えることで周囲からの刺激を和らげ、学習に集中できる教室づくりを心掛けていく。
- ◇専門機関との連携を密にすることで、指導方法や支援体制の充実を図る。
- ◇いきいき香南っこ相談事業は順次実施し、特別支援専門職員と連携して各所園の特別支援保育・教育の支援を行っていく。
- ◇市健康対策課との連携による早期対応や、年長組相談への市教委学校教育課指導主任、スクールソーシャルワーカーの参加により就学における引継・連携などを、継続して行い、子どもの理解や支援へつなげていく。

#### 【評価】

各学校では、新型コロナウイルス感染症対策を講じた環境の中での授業が展開され、これまで以上にICT機器を有効に活用した授業実践が進んだ。新学習指導要領の実施に伴い、小学校ではプログラミング教育の充実に向け、ICT支援員との共同授業が展開されるとともに、校内研修を通じて、共通理解が進んだ。確かな学力の育成に向け、基礎基本の学力の定着はもちろんのこと、新学習指導要領における新しい学力観に沿って、確かな学力が子どもたちに身に付くよう取り組んでいくとともに、外国語教育やプログラミング教育など新たな教育が学校現場に迅速に定着するよう、支援を行ったり研修の機会を設けたりしていく。また、GIGAスクール構想に伴う一人一台端末の整備によって、児童生徒の主体的な学習への転換を図り、学力向上につながるよう効果的な使用場面・方法の共有を図る。

豊かな心の育成では、道徳の時間を中心に継続的に市ぐるみで授業改善の取り組みを進めたことにより、道徳の時間への意識が高まり、発達段階に応じた発問の設定や資料解釈ができ、自尊感情や規範意識を高める授業づくりを行うことができた。

人権教育の推進においては、各学校における人権教育全体計画、年間指導計画に基づき学習を展開するとともに、人権参観日等を実施し、保護者や家庭地域への普及・啓発を行えた。今後も人権意識を高め定着させていくため、あらゆる教育活動を通して人権教育に取り組んでいく必要がある。

#### 4) きめ細かな教育の推進

##### 重点取組事項

- ①教職員の専門性・指導力の向上
- ②保育所・幼稚園・学校運営の充実
- ③生徒指導の充実
- ④教育相談・支援体制の充実
- ⑤教職員の働き方改革の推進

##### ①教職員の専門性・指導力の向上

###### 【取組の概要】

- ◇保幼小中が連携して、共に取り組むべき課題等について、各主任会・担当者会を計画的に実施し、情報交換や指導・支援の在り方について、協議を通して共通理解を図った。
- ◇各小・中学校の学校経営計画、各学力調査分析、校内研修推進計画に基づく取組や県指定事業等を活用して指導・支援することで、授業研究を中心にした授業改善に取り組んだ。中学校では、東部教育事務所と連携し授業改善プランを検証することでP D C Aサイクルを意識した教育活動に取り組んだ。
- ◇市内保幼研究主任会の実施（3回、39人）

###### 【成果】

- ◇異校種間で、目指す子ども像を共有したうえで、学力向上に向けての具体的な取組について協議し、中学校区で共通した取組について共通理解を図り実践につなげることができた。
- ◇中堅保育士として、自分の立場を自覚して自分の園を捉え直し取り組むことができるようになった。

###### 【課題・方針】

- ◇教職員の専門性や指導力の向上を目指し、研修の機会を充実させていく。
- ◇新学習指導要領が示す学力観に沿って、日々の授業改善に取り組んでいく。

##### ②保育所・幼稚園・学校運営の充実

###### 【取組の概要】

- ◇所属長会・副所属長会等において定期的な協議や研修を実施し、市内の各所属において、揃えるべき経営事項など確認、協議しながら経営の安定化を図った。
- ◇保育所評議員・学校評議員の配置や、学校アンケート等の実施により、保育経営・学校経営に地域・保護者・児童生徒の意見や評価を取り入れ、子どもたちがより良い保育・学校生活を送れるよう、運営の改善と発展に努めた。また、市の教育行政方針や評価の視点等を確認し、情報交換や協議を行うための香南市保育所評議員・学校評議員連絡会を開催する計画であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。
- ◇コミュニティ・スクール導入に向け、既存の学校評議員の仕組みを学校運営協議会へスムーズに移行できた。

## 【成果】

◇令和3年度に全ての小中学校にコミュニティ・スクールを導入することができた。

## 【課題・方針】

- ◇学校経営計画に沿って、知徳体のバランスの取れた学校運営を推進していく。運営に当たっては、PDCAサイクルを回してチェック機能や改善策を入れながら、効果的な学校運営に心がけていく。
- ◇保育所・学校評価の結果を重視し、児童生徒・保護者・地域の方からの意見も参考にした学校運営を行う。
- ◇学校運営協議会と地域学校協働本部の連携を更に進め、地域に開かれた特色のある学校づくりの構築を進める。

## ③生徒指導の充実

### 【取組の概要】

- ◇全小・中学校の全学年に対し、年2回のQ-Uアンケートを実施し、その分析結果から児童生徒理解を深め、温かい学級・学校づくりに努めた。
- ◇補導員連絡会で、生徒指導に係る情報交換や問題行動未然防止の取組についての研修等を実施した。
- ◇高知夢いっぱいプロジェクト推進事業「夢・志を育む学級運営のための実践研究事業」として、児童生徒の自己指導能力を育成するため、学校行事や児童会・生徒会活動を充実させ、児童生徒の自治活動等を活性化するとともに、学級での話し合い活動や主体的に活躍できる場を充実させる等、自尊感情、自己有用感を育む開発的な生徒指導の視点を位置付けた教育活動を組織的にすすめた。（野市小学校）

## 【成果】

◇校長会において、高知工科大学の講師に来て頂き、継続的調査に係るアンケート等の結果に関する分析について講話頂き、自校の児童理解に活用することができた。

## 【課題・方針】

- ◇Q-Uアンケートは今後も実施し結果を分析することで、教員が気付きにくい児童生徒の思いや悩みをいち早く把握し、生徒指導の早期対応につなげていく。
- ◇「自己決定の場を与える」「自己存在感を与える」「共感的人間関係を育成する」といった生徒指導の3機能を教育活動の中に取り入れることで、自己指導能力を高め、児童生徒の主体的な活動へとつなげていく。

## ④教育相談・支援体制の充実

### 【取組の概要】

- ◇就学移行期にスマイルサポート支援ファイルを作成・活用し、関係者間の情報及び認識の共有化、保育所、幼稚園から小学校での教育支援の円滑な移行を図った。
- ◇子どもたちの大切な命を守ることを目的に、いじめや児童虐待に対応する校内体制の整備と見直しを図り、絶えず子どもたちのサインを見逃さない取組と情報の共有化を進め、関係機関との連携をとりながら対応を強化するよう取り組んだ。
- ◇各中学校区に1名ずつスクールソーシャルワーカーを配置し、子どもの居場所づくりを

進め、全ての長期欠席児童生徒への支援をめざして、様々な態様を持つ不登校の子どもたちや保護者への支援や取組を行い、実態に応じたソーシャルワークができるよう学校との連携体制を構築すべく取り組んだ。

(本年度スクールソーシャルワーカー4名体制)

◇小・中学校保護者対象の「ほのぼの相談」を開設し、課題を抱える子どもと保護者の支援に取り組んだ。就学前保護者対象の「こども相談室」は、関わってきた相談者が成長したことや十分なカウンセリングを行うなど一定の役割を終えたことにより令和3年3月で廃止したが、保幼小中の他、高校、卒業生、家族等を対象にした「子育て・教育相談」を令和3年7月に新設した。子育て支援センター「にこなん」での相談は、未就学児に関して来所・電話で常時実施した。

#### 【成果】

- ◇各校で実態に応じた特色のあるスクールカウンセラーの活用ができた。
- ◇スクールソーシャルワーカーを4名体制とし、配置校を主に中学校区別とすることで、きめ細かい支援体制が構築でき関係機関との連携や強化が図られた。
- ◇ほのぼの相談来所12件、電話メール26件、子育て・教育相談58件、にこなん101件（うち出張広場6件）

#### 【課題・方針】

- ◇スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置については、児童生徒・保護者・学校への支援を考え効果的な配置を継続していく。
- ◇専門機関との連携を密にしながら教育相談体制の充実を図っていく。
- ◇子どもたちや保護者の悩み・不安に対応するための教育相談活動を引き続き行い、不登校やいじめの教育課題に対して、関係機関と連携しながら適切な対応に努める。

### ⑤教職員の働き方改革の推進

#### 【取組の概要】

- ◇スクール・サポート・スタッフを配置（香我美小・野市東小・野市小・佐古小・香我美中・野市中）した。
- ◇統合型校務支援システムの運用を進めた。
- ◇学校が希望する部活動指導員を配置した。
- ◇学校が希望する各種支援員を配置した。
- ◇小学校教科担任制実践研究校事業（野市東小・野市小・佐古小）に取り組んでいる。
- ◇Web会議システムの活用を推進している。
- ◇ICT機器を活用した教材や指導方法を共有化した。
- ◇ICT機器を活用したアンケートを実施した。

#### 【成果】

- ◇スクール・サポート・スタッフの配置により、教職員の事務作業が軽減された。
- ◇統合型校務支援システムの運用により、事務処理に関わる業務が軽減されている。
- ◇部活動指導員の配備により、専門的な技術指導を支援してもらっている。また、教員の子どもに向き合う時間の増加につながっている。
- ◇各種支援員の配置により、特別な支援を必要とする児童生徒への支援にあたることがで

き、学級担任等と連携した支援や対応を行えることで、教職員の業務軽減につながっている。

- ◇小学校教科担任制実践研究校事業（野市東小・野市小・佐古小）により、教材研究や授業の準備を効率的に行えている。
- ◇Web会議システムの活用により、移動時間の短縮が出来ている。
- ◇ICT機器を活用した教材や指導方法の共有が出来ている。
- ◇ICT機器を活用したアンケートの実施により集計作業時間の削減につながっている。

#### 【課題・方針】

- ◇統合型校務支援システムやWeb会議システムなどの利用が浸透してきているが、効果の検証と利用可能性の両方について研究を進める。
- ◇部活動指導員は、学校のニーズに応えられる人材探しが課題であり、他機関との情報共有が重要となる。
- ◇各種支援員の個々の役割を明確にし、適切な配置が求められる。
- ◇ICT機器を活用した教材や指導方法の開発は、よりスピードが求められる。

#### 【評価】

各中学校区の保幼小中が連携して課題を洗い出し、その課題解決に向け協議し、15年間を見通した系統的な取組の推進ができています。令和2年度に改訂した「香南市保幼小中連携カリキュラム（改訂）」に基づき、今後も各中学校区において保幼小中が緊密に連携しながら子どもの学びと育ちを連続させる取組の推進を図っていく。

子どもたちが安心して保育所や学校生活を送れることができるように子ども理解やアンケート調査等を分析するなどし、PDCAを回しながら授業改善や学習習慣、生活習慣の定着等に継続的な取り組みは進んでいる。今後は、保育所や幼稚園での幼児教育、全ての小・中学校での授業改善や指導を充実させるため、生徒指導の3機能を教育活動の中に意識して取り入れた実践を行い、子どもが主体的、積極的に取り組むことができるよう支援していく。

## 5) 安全な教育環境での教育の推進

### 重点取組事項

- ①防災教育等の推進
- ②保育所・幼稚園・学校の環境整備

#### ①防災教育等の推進

##### 【取組の概要】

- ◇各学校では、学校管理運営計画書の見直し時期や防災に関する取組に合わせ、学校防災マニュアル、危機管理マニュアルを見直すとともに、防災教育の推進に取り組んだ。
- ◇安全に対して必要な条件整備を図り、事故や災害が発生した場合に備えての危機管理体制を整えるとともに、日頃からの危機管理マニュアルの周知徹底を図り、事故や災害に強い

施設や環境の整備に努めた。

- ◇家庭や地域及び関係機関との連携を密にし、児童生徒や保護者が安心して防犯に関する相談ができる体制を整備し、登下校時における犯罪被害の防止や不審者の校内侵入に対する安全確保の徹底に努めた。
- ◇保護者や地域を巻き込んだ地域住民参加型の防犯体制を整え、子どもたちに対する犯罪の未然防止に努めた。

#### 【成果】

- ◇各防災等に関わるマニュアルの見直しについて、より実態に即したのものへの変更が定着してきている。

#### 【課題・方針】

- ◇自分の命は自分で守ることができる児童生徒の育成を目指し、今後も年間3回以上の避難訓練の実施、年間5時間以上の防災学習の実施を徹底する。
- ◇防災教育を通して、子どもたちの安全への意識や災害への備えを含めた実践的態度を高めていく。
- ◇災害発生時の避難行動や、発生後の避難生活について、学校だけではなく機会が合えば地域と連携した活動に拡充していく必要がある。

## ②保育所・幼稚園・学校の環境整備

#### 【取組の概要】

- ◇教育施設等の老朽化に伴い、ゆとりや潤いのある保育・教育の場として、計画的な改修・改築に努め、施設・設備の充実に努めた。
  - \*プール改築工事（香我美小）
- ◇新たなニーズに対応する教育施設を計画的に整備することに努めた。
- ◇教育内容や指導方法の多様化に対応した教材・教具の整備充実に努めた。
- ◇教育施設の遊具等について、定期的な点検、補修等を実施し、安全確保に努めた。
- ◇新型コロナウイルス感染症対策として、保育所・幼稚園では空気清浄機、サーキュレーター、パーティション、非接触型体温計等を整備した。また、小・中学校では光触媒除菌脱臭機、高圧蒸気滅菌器を整備した。

#### 【成果】

- ◇プールの改築等、計画的な環境整備を実施した。
- ◇施設環境を改善することで、より一層の除菌・滅菌等についての徹底が図られ、感染防止が図れた。
- ◇市内全小中学校及び教育支援センターに電子黒板を導入するなど、情報機器の充実に図り、ICTを活用した教育環境の整備を実施した。
- ◇令和2年3月に提出された香南市学校等の規模適正化等についての答申を受け、今後の基本的な方針を策定するため、香南市学校等の規模適正化等基本計画検討会議を組織し、基本計画案策定に向けての協議を行った。

#### 【課題・方針】

- ◇校舎等の老朽化が多く、多くの学校で見られ、大規模な改修が求められている。緊急性も加味しながら計画案を作成し、順次対応していく。

- ◇児童生徒の安全の確保を優先に考え、危険個所等の修繕については迅速に対応していく。
- ◇今後も遊具の定期点検などを行い、必要な修繕を実施し安全確保に努める。
- ◇施設の環境整備とあわせ、今後とも集団生活における3密回避などの啓発及びその運用の徹底に努める。
- ◇学校等の規模適正化への取組については、次年度も引き続き協議・検討を進め、津波浸水エリアの保幼小中学校の津波浸水エリア外への移転など、早期実現に向けて取組を進める。

### 【評価】

香我美小学校のプール改築工事は令和3年度にほぼ完了し、令和4年5月末に完成予定となっている。今後も適切な施設管理を行い、子どもたちの安心安全を第一に考え、修繕や改修等を計画的に進めていく。

通学路の安全点検を行い、特に危険個所については香南市通学路安全対策連絡協議会及び各関係機関が連携を図りながら合同点検を実施した。これにより危険個所への対策を講じ、児童生徒の安全確保に努めた。

学校内の施設及び設備等における毎月1回の定期点検を継続的に実施し、遊具等の修繕を迅速に実施し、施設の安全確保に努めた。

新型コロナウイルス感染症対策として、施設の環境整備を可能な限り行ったことで、安全性の向上を図り、教育・保育活動を継続することができた。

学校等の規模適正化に向けた取組については、基本計画案策定に向け取り組んだが策定には至っていない。今後、防災上の観点からも早期に実現できるよう積極的な取組を進める。

## (2) いきいきと学ぶ生涯学習の推進

### 1) 生涯にわたり豊かな心を育む環境づくり

#### 重点取組事項

- ①ライフステージに対応した学習の充実
- ②生きがいを得る学習機会の充実
- ③現代的課題に対応した学習機会の充実
- ④学習施設の整備
- ⑤地域に密着した学習の場の提供
- ⑥生涯学習推進組織の整備
- ⑦情報提供・相談機能の強化
- ⑧指導者の育成・人材活用
- ⑨生涯学習を通じての地域づくり
- ⑩全ての人と共生する生涯学習の推進

#### ①ライフステージに対応した学習の充実

##### 【取組の概要】

- ◇次世代を担う青少年の育成に資するため、各種事業で指導者育成の視点を持って実施した。
- ◇豊かな心を持ったたくましい子どもを育成するため、体験活動や地域間交流を推進した。また、三世代交流事業として、11月にパークゴルフ大会、1月に新春凧揚げ大会を開催した。
- ◇青少年健全育成市民会議等の活動の支援を積極的に推進した。
- ◇香南市補導センターや関係機関との連携を密にした、健全育成活動の充実に努めた。

##### 【成果】

- ◇平成27年度から新成人による成人式実行委員会を立ち上げ実施している。令和3年度の成人式は新成人271名の参加があった。(令和2年度分は延期のまま)
- ◇各公民館で実施する夏休みの教室は、新型コロナウイルス感染症の影響で一部が延期になったが、11月までに全講座が開催できた。
- ◇青少年育成会議の実施する本部事業、各支部事業とも今年度は、感染予防を実施しながら規模は縮小したものの、大半の事業は実施した。

##### 【課題・方針】

- ◇成人式実行委員会の委員は、従来の市広報での募集に加えて、対象者全員に実行委員募集の案内を送付し、当該年度の実行委員6名と多くの人数が参加し活発な意見交換がなされたが、次年度の成人式対象者の参加がなかった。令和2年度分の成人式が延期のままになっており、令和4年度中の実施を検討する。

#### ②生きがいを得る学習機会の充実

##### 【取組の概要】

- ◇あらゆる機会を通じて市民の学習ニーズを把握し、多様な学習機会の提供に努めた。



多くの参加者が見込める、いきいきセミナーについては、新型コロナウイルス感染対策を行いつつ実施した。

◇学習情報の収集と提供により、いつでも、どこでも、だれでもが学習できる環境の実現に努めた。

#### 【成果】

◇いきいきセミナーは4講座を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により4回のうち2回を中止とした。

#### 【課題・方針】

◇来年度は、アンケート結果を参考に内容を重視し、ウイズコロナを考慮しながらより多くの市民が受講したいと思う著名な講師を選考するよう取り組む。

### ③現代的課題に対応した学習機会の充実

#### 【取組の概要】

◇女性団体や高齢者団体等の社会教育団体との連携を図り、ボランティア活動の推進や男女共同参画社会の実現に向けた取組の強化を図った。

◇生涯学習社会の実現をめざし、世代に応じた魅力的な講座・教室の開催に努めた。

◇人権学習や研修を通して、お互いの人権を尊重する意識の高揚に努めた。

◇家庭・地域や各種団体において人権を大切にする教育の啓発活動を充実するとともに、地域交流の促進に努めた。

◇同和問題をはじめ障害者や高齢者、外国人、H I V感染者等、インターネットによる人権侵害、性的指向・性自認、災害と人権、犯罪被害者等、その他の人権を守る教育を推進するため、学校や地域指導者と連携して、香南・香美子ども人権学習交流会を開催する計画であったが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止となった。

◇こどもの権利について認識を深め、未来を担う子どもを大切にする教育を推進した。

◇人権教育推進のために、香南市人権教育研究協議会をはじめ、人権擁護委員会等各種団体との緊密な連携に努めた。

#### 【成果】

◇コロナ禍の中ではあったが、内容や定数の変更を行うなどにより、香南中央公民館の高齢者学級や中央生活学級など各公民館で趣味教養の各種教室を実施した。

◇人権教育研究大会は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止により中止となったが、保育所・幼稚園、小・中学校を中心にレポートを提出していただき報告資料を作成し、具体的な人権問題について考える機会を設けた。

◇いきいきセミナー、人権フェスティバル、部落差別をなくする強調旬間期間中など、他課との連携により、人権講演会を開催し市民に学習の機会を提供することができた。

#### 【課題・方針】

◇乳児期、幼児期に対しての趣味教養教室が実施できていないので検討していきたい。

◇香南市人権教育研究協議会と学校や人権擁護委員会等各種団体との人権教育や啓発事業に係る連携や調整がスムーズに実施できていないので関係者との検討会が必要である。

#### ④学習施設の整備

##### 【取組の概要】

- ◇図書購入費を総額690万円とし、野市図書館380万円、香我美図書館260万円、夜須図書室50万円を配分し購入した。
- ◇野市図書館の全館フリーwi-fi化を行った。
- ◇野市東防災コミュニティセンターの整備について、地元の建設検討委員会との協議を行うとともに、整備工事に伴う建設等事前調査を行った。

##### 【成果】

- ◇図書館の利用状況は、コロナ禍中ではあるが全般に回復基調にあり、入館者数が前年伸長を遂げる(111.4%)とともに、貸出人数(108.1%)、貸出冊数(107.4%)ともに伸びた。
- ◇学校図書館や児童クラブとの連携を密にし、図書の定期配送や回収を実施したことで児童・生徒の読書機会拡大につなげた。
- ◇SNS(LINE・Instagram)やホームページを最大限活用し、情報発信を幅広く行った。
- ◇各施設は、適切な維持管理を行うことにより長寿命化を目指して管理されている。
- ◇野市東防災コミュニティセンターの整備は計画的に進めることができた。

##### 【課題・方針】

- ◇読書バリアフリー法施行に伴い、来年度はサピエ図書館利用登録を行い、市内の障害者向けに録音図書・再生機器の貸出を実施するなど、誰にでも安心して利用できる施設、機能整備を更に推進する。
- ◇野市東防災コミュニティセンターの令和5年度中の供用開始に向け、整備事業の計画的な実施と供用後の施設の運用方法等について地元建設検討委員会と協議を進めていく。

#### ⑤地域に密着した学習の場の提供

##### 【取組の概要】

- ◇公民館活動の活性化を図るため、中央公民館や市民館及び地区公民館等の連携強化に努め、市が進めるまちづくり自治会、まちづくり協議会の事業に協力し、住民に周知するチラシ、たよりを発行した。
- ◇NPO法人みかんネット香南などとの連携により、情報通信技術の学習活動を推進した。

##### 【成果】

- ◇香我美市民館や地区公民館だより等を活用することにより、地域の特色ある行事や地域の偉人を周知するとともに、地域と連携した顕彰事業を実施することができた。

##### 【課題・方針】

- ◇継続事業として、公民館活動の活性化を図るため、中央公民館や市民館及び地区公民館等の連携強化に努め、各種団体等への周知を行う。
- ◇防災意識の定着を目指し、香我美市民館と山南まちづくり協議会の共同事業として防災訓練を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。方法を工夫するなど、今後も地区公民館と連携した訓練等を継続できるよう取り組む。

## ⑥生涯学習推進組織の整備

### 【取組の概要】

- ◇生涯学習に関する計画の評価と施策について、関係諸団体と継続的な視野を持ちながら連携を図り、また、社会教育に係る資格取得の支援を行っていく。
- ◇公民館活動とまちづくり協議会・自治会の活動の連携による、生涯学習推進組織の強化を図る。
- ◇社会教育関係団体の申請をさせることにより活動の把握及び支援の方法を検討する。

### 【成果】

- ◇夜須町まちづくり協議会の取り組みのレポートを写真付きで大型掲示物として夜須公民館ロビーに常設掲示したほか、3月には協議会と公民館の合同で公民館内外を使った体験イベントを開催し、約300人が参加した。これまではそれぞれ単独でやってきたが、合同開催により双方の運営負担を軽減できたうえ、効果的なPRができて多くの住民に両方の活動を知っていただけた。

### 【課題・方針】

- ◇今後も各公民館とまちづくり自治会・協議会の活動をリンクさせるための検討会を全地域で開催する必要がある。

## ⑦情報提供・相談機能の強化

### 【取組の概要】

- ◇市広報、市ホームページ、市民館たより、まちづくり協議会たよりなどを通じて事業・教室の周知を行った。

### 【成果】

- ◇重要文化財安岡家住宅一般公開の開催について市ホームページで発信することができた。

### 【課題・方針】

- ◇あらゆる情報機器を使用し、住民に対し情報発信を行い、最新情報に定期的に更新していく。

## ⑧指導者の育成・人材活用

### 【取組の概要】

- ◇子どもの安全を守るため、地域住民による子ども見守りボランティアの育成に努めた。
- ◇高齢者や地域の人材を活用した、知恵と経験に学ぶ世代間交流を積極的に推進した。
- ◇子どもの体験活動を推進するボランティア団体への支援を行った。

### 【成果】

- ◇人材バンクは、広報や各種団体等への呼びかけを継続して実施した。
- ◇新型コロナウイルス感染症の影響により中止されていた「子ども司書養成講座」や「読書ボランティア養成講座」を規模縮小及び感染対策を実施することにより開催することができた。

**【課題・方針】**

◇人材バンクについてホームページを更新し制度について改めて周知をする。  
また、登録者と利用者とのマッチングをスムーズにできる方法を検討する。

**⑨生涯学習を通じての地域づくり**

**【取組の概要】**

◇香南市内の小学生を募集し、こどもよさこい連合会として「よさこい祭り」「みなこい港祭り」等へ参加の予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により各種イベントが中止となったため参加できなかった。

**【成果】**

◇今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、よさこい祭りをはじめ多くの事業が中止となった。

**【課題・方針】**

◇香南市の小学生を対象にしているが練習会場の関係から野市町内の小学生が主体となっており、市内全域からの参加に結びつけられていない。

**⑩全ての人と共生する生涯学習の推進**

**【取組の概要】**

◇昨年と同様に、新型コロナウイルス感染予防対策を実施し、生涯学習施設での円滑な活動ができるように、利用者団体等と協議し感染対策を実施してきた。

**【成果】**

◇市民の声を拾いながら迅速に対応したことで高齢者等の利用や安全性につながられた。

**【課題・方針】**

◇今後も市民の声を活かして適切に対応していく。

**【評価】**

多くの事業が新型コロナウイルス感染症の影響により中止となる中、開催時期や内容を見直すことにより学習機会の提供や交流の場づくりの支援が行えたことは評価できるが、ICT機器を活用した事業の在り方を検討・実施できなかったことは課題である。

**2) 文化の継承と振興**

**重点取組事項**

- ①芸術・文化活動の推進
- ②郷土の歴史・文化遺産の保存と継承

## ①芸術・文化活動の推進

### 【取組の概要】

- ◇文化関係団体との連携を図り、文化祭や美術展の開催、文化サークルによる発表会や展示会の実施を積極的に進め、芸術や文化の振興を図った。
- ◇子どもたちに文芸に親しんでもらうため、岡本彌太文学賞の作品募集を行い、情操教育の推進を図った。
- ◇地域の文化活動を推進し、文化意識の高揚を図った。

### 【成果】

- ◇各地区が開催している文化祭は、野市地区文化協会、夜須町文化協会、香我美町文化協会のいずれも舞台部門・展示部門ともに開催できた。また、夜須町文化協会の舞台部門ではオンラインライブ配信も行った。
- ◇香美・香南文化協会合同芸能大会は新型コロナウイルス感染症の影響で中止にしたが、短詩型文学振興大会は書面開催で作品応募を行い、多数応募があり開催することができた。
- ◇市内小・中学校に岡本彌太文学賞への作品応募が定着してきており、児童生徒の表現力の育成や詩・俳句の作成能力の向上につながっている。

### 【課題・方針】

- ◇ウイズコロナを考慮しながら、文化活動の取組方法や情報発信の仕方を検討し推進や振興を図る。

## ②郷土の歴史・文化遺産の保存と継承

### 【取組の概要】

- ◇関係機関と連携して埋蔵文化財の発掘と保護に努めた。（試掘調査5件、本調査2件、遺跡調査報告書2件刊行）
- ◇過去の遺跡写真ネガフィルムをデジタル化し、円滑な活用を目的とした台帳作成を行った。
- ◇香南市文化財センター等において、復元された出土品等を公開するとともに、遺跡の調査や公表を通じて文化財の保護意識の醸成を図った。
- ◇市指定史跡鬼ヶ岩屋洞穴のジオラマ作成・展示を行い、広報普及に努めた。
- ◇文化財講座や文化財めぐり、地域への出前講座を開催したり、こども文化財講座として香南市の昔話をYouTube配信するなど、文化・歴史に触れられる機会を持った。
- ◇県指定旧赤岡町の土佐芝居絵屏風修復事業や重要文化財木造十一面観音立像他2件収蔵恵日寺修理事業の実施や無形民俗文化財の伝承・保存活動を支援した。

### 【成果】

- ◇発掘調査では、円滑な調査を実施するとともに、課題であった過年度実施調査の報告書を計画的に刊行し、記録保存を行うことができた。併せてジオラマ展示など、広報普及活動も積極的に実施した。
- ◇文化財の保存修理や保存活動・広報活動を積極的に行うことができた。

### 【課題・方針】

- ◇文化財・埋蔵文化財について、その存在をさらに知ってもらい、理解を深め、関心を持ち、保護意識を高めてもらえるような方法（活動）を検討していく。

## 【評価】

コロナ禍の状況において、発掘事業や文化財啓発事業を行うことが困難な中、感染対策に務め事業を行うことができた。また伝承・保存活動についても、実行することができた。

安岡家住宅一般公開については、感染対策や重要文化財の汚損・破損防止対策を徹底し、ボランティアガイドの協力を得て実施することができた。

昨年度に続き令和3年度も新たに市指定文化財が誕生したことや文化財防火デーにちなんだ文化財消火訓練、文化財センター展示室リニューアルなどを実施し、広報啓発活動も行うことができた。

## 3) 生涯にわたり親しみ高めあうスポーツの振興

### 重点取組事項

- ①生涯スポーツ・競技スポーツの推進
- ②スポーツ環境の充実
- ③スポーツ指導員の養成・人材活用

### ①生涯スポーツ・競技スポーツの推進

#### 【取組の概要】

◇NPO法人こうなんスポーツクラブ・NPO法人YASU海の駅クラブ等と連携し、ライフステージに合わせたスポーツ活動を推進するとともに、各種スポーツの普及やスポーツ教室を開催した。

◇スポーツ少年団やスポーツ協会等の活動を支援し、競技力向上を図った。

#### 【成果】

◇新型コロナウイルス感染症の影響があるなか、開催回数は昨年度に比べて微増となった。

NPO法人と連携して概ね計画どおりに教室や大会を開催し、生涯スポーツの振興に取り組んだ。しかしながら、コロナ禍前の6割程度の開催回数である。

\*こうなんスポーツクラブ 教室：19事業（延べ595回） 大会：3大会

\*YASU海の駅クラブ 3事業（市長杯ヨット大会、シーズスポーツ体験、香南ジュニアヨットクラブの育成）

◇スポーツ少年団とスポーツ協会の活動に関し、補助金や施設使用料の減免などの財政的支援を継続して実施することにより、団体数の維持に努めることができた。

令和3年度 （令和2年度）

\*スポーツ少年団 25団体 （27団体）

\*スポーツ協会 592人 （644人）

#### 【課題・方針】

◇地域コミュニティの振興等に寄与してきた運動会が2年連続で中止となったため、令和4年度に再開させるためには、継続開催以上の調整が必要となる。

◇本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年度と同じくスポーツを通じた活躍の場が少ない状況が継続した。

◇一層の健康増進を図るため、既存競技だけでなく小学生から高齢者まで楽しめるニュースポーツを企画立案し、継続して行えるようスポーツクラブと連携していく必要がある。

## ②スポーツ環境の充実

### 【取組の概要】

- ◇スポーツに関する情報の提供や、体育施設や学校施設の有効的な活用を図り、より身近にスポーツを感じる機会の充実に努めた。
- ◇スポーツ施設の改修を行う等スポーツ環境の整備を行った。  
(野市総合体育館アリーナ照明器具 LED 化、ふれあい広場乗用リールモア購入、香我美オレンジテニス場法面危険防止フェンス設置など)

### 【成果】

- ◇野市総合体育館照明器具 LED 化工事に伴い利用できない期間が生じたが、利用者等に対する十分な周知等を行い、代替スポーツ施設への誘導等を行うことで大きな混乱を招くことなく、改修工事を完了した。その他スポーツ施設の安全安心な環境整備を図るため、各種改修工事等を行った。

### 【課題・方針】

- ◇毎年度、突発的な修繕工事が必要となっているため、施設の定期的な点検を実施し、計画的に改修や設備の交換を行う必要がある。

## ③スポーツ指導員の養成・人材活用

### 【取組の概要】

- ◇地域スポーツクラブの育成を図り、各種スポーツ指導者の養成と人材の確保に努めた。
- ◇スポーツ推進員が地域で活躍できる体制づくりの取組として地区運動会等を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった。

### 【成果】

- ◇新型コロナウイルスの感染予防対策を講じつつスポーツ活動を継続するための各種ガイドラインの整備が進み、昨年度に比べてスポーツ活動が活発に行われた。

### 【課題・方針】

- ◇スポーツ推進員を含むスポーツ指導者人材の高齢化が進行しており、今後は若い世代の人材確保が急務である。

### 【評価】

新型コロナウイルス感染症の影響により大会等の中止はあったが、感染症対策を講じながらNPO法人やスポーツ少年団、スポーツ協会を中心に活動を行うことで市民の健康保持や増進に寄与し、スポーツの楽しさが再認識されるなど、コロナ禍においてもスポーツ振興の意識を低下させることなく取り組めたことは大きいと考える。

#### 4. 成果指標の点検・評価結果一覧表

基本目標／施策名／成果指標		担当課	評価
1. 生きる力を育む就学前・学校教育の推進			
(1) 保幼小中連携（一貫）教育の推進			
①保幼小中・家庭・地域連携（一貫）教育の推進			
1	交流活動を組織として位置付ける（よくできた、できたと回答した割合）	学校教育課	A
2	交流活動の際、育てたい力の共通理解（よくできた、できたと回答した割合）	学校教育課	B
(2) 家庭や地域と連携した教育の推進（チーム学校の取組）			
①厳しい環境にある子どもたちへの支援			
3	香南市チャレンジ塾の開設数	学校教育課	B
4	子育て親育ち講演会への参加者数	こども課	C
②学校の組織マネジメント力の強化			
5	学校運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、組織的に取り組んでいる学校の割合（「よく行っている」と回答した学校の割合）	学校教育課	C
6	学力傾向や課題について、全教職員の間で共有している学校の割合（「よく行っている」と回答した学校）	学校教育課	C
③不登校の改善			
7	不登校児童・生徒の割合（不登校児童・生徒数／総児童・生徒数）	学校教育課	C
④子どもが育ちやすい地域コミュニティの再構築			
8	こうなんファミリーサポートセンター会員数	こども課	B
9	市の子育て情報サイトへのアクセス数	こども課	A
10	地域学校協働本部設置数	学校教育課	A
11	コミュニティ・スクール設置数	学校教育課	A
⑤家庭の教育力の向上			
12	【再掲No. 7】 不登校児童・生徒の割合（不登校児童・生徒数／総児童・生徒数）	学校教育課	C
13	毎日朝食を食べる児童生徒の割合（3歳児）	こども課	B
14	毎日朝食を食べる児童生徒の割合（小学校6年生・中学校3年生）	学校教育課	B
15	【再掲No. 4】 子育て親育ち講演会への参加者数	こども課	C
⑥放課後の子どもの生活・学習支援の充実			
16	放課後児童クラブの利用者数	こども課	A
17	放課後児童クラブ、放課後子ども教室の支援員等研修会実施回数	こども課	A
(3) これからの社会を生き抜く力を育む教育の推進			
①就学前教育の充実			
18	市職員研修及び園内研修の実施回数	こども課	A
19	子育て支援センター利用者数（児童のみ）	こども課	B



②確かな学力の育成			
20	【再掲No. 6】学力傾向や課題について、全教職員の間で共有している学校の割合（「よく行っている」と回答した学校）	学校教育課	C
21	ICT機器を活用した校内授業研修を実施したか。	学校教育課	A
22	言語活動について、国語科だけでなく、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体で取り組んでいる学校の割合（「よく行っている」と回答した学校の割合）	学校教育課	C
③豊かな心の育成			
23	自分にはよいところがあると思うか。（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合）	学校教育課	A
24	将来の夢や目標を持っているか。（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合）	学校教育課	C
④キャリア教育の推進			
25	【再掲No. 24】将来の夢や目標を持っているか。（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合）	学校教育課	C
26	難しいことでも失敗を恐れないで挑戦しているか。（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合）	学校教育課	—
⑤人権教育の推進			
27	人権教育について計画的に実施することができた学校数	学校教育課	A
28	いじめが解消した割合（いじめが解消した件数/いじめの認知件数）	学校教育課	C
⑥健やかな体の育成と健康の増進			
29	【再掲No. 13】毎日朝食を食べる児童生徒の割合（3歳児）	学校教育課	B
30	【再掲No. 14】毎日朝食を食べる児童生徒の割合（小学校6年生・中学校3年生）	学校教育課	B
31	地域人材を活用しての料理教室などの取組を実施した学校数	学校教育課	A
32	肥満傾向率（小学校5年生）	学校教育課	C
⑦特別支援教育の推進			
33	個別の指導計画書を作成した保幼小中の割合（保育所・幼稚園）	学校教育課	A
34	個別の指導計画書を作成した保幼小中の割合（小学校・中学校）	学校教育課	A
35	スマイルサポート支援ファイル及び支援シートを活用した引き継ぎの実施校数	こども課 学校教育課	A
(4) きめ細かな教育の推進			
①教職員の専門性・指導力の向上			
36	授業の内容がよくわかると回答した児童生徒の割合（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合）【国語】	学校教育課	A
37	授業の内容がよくわかると回答した児童生徒の割合（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合）【算数・数学】	学校教育課	A
②保育所・学校運営の充実			
38	【再掲No. 10】地域学校協働本部設置数	学校教育課	A
39	保育所・学校評議員連絡会（中学校区）の開催数	こども課 学校教育課	C
40	【再掲No. 11】コミュニティ・スクール設置数	学校教育課	A

③生徒指導の充実			
41	【再掲No. 5】 学校運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、組織的に取り組んでいる学校の割合（「よく行っている」と回答した学校の割合）	学校教育課	C
42	学校に行くのは楽しいと思うと回答した児童生徒の割合（「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」回答した割合）	学校教育課	A
④教育相談・支援体制			
43	【再掲No. 7】 不登校児童・生徒の割合（不登校児童・生徒数／総児童・生徒数）	学校教育課	C
(5) 安全な教育環境での教育の推進			
①防災教育等の推進			
44	多様な状況での避難訓練を計画的に実施できたか。	こども課 学校教育課	A
45	学校安全プログラムを活用した年間5時間以上の防災教育が実施できたか。	学校教育課	A
②保育所、幼稚園、小・中学校の環境整備			
46	小・中学校における非構造部材の耐震化	学校教育課	A
47	小・中学校におけるトイレの洋便器化	学校教育課	A
48	通園・通学路の点検を定期的に行ってきたか。	こども課 学校教育課	A
49	学校内の施設等に関する安全点検が定期的に行ってきたか。	学校教育課	A
2. 生き生きと学ぶ生涯学習の推進			
(1) 生涯にわたり豊かな心を育む環境づくり			
①ライフステージに対応した学習の充実（家庭教育・学校教育・社会教育）			
50	夏休み子ども教室の回数（参加者数）	生涯学習課	B
51	三世代交流事業参加者数（凧揚げ）	生涯学習課	C
②生きがいを得る学習機会の充実			
52	いきいきセミナーの開催回数	生涯学習課	B
53	生涯学習人材バンクの登録者数	生涯学習課	D
③現代的課題に対応した学習機会の充実			
54	各種教室の開催回数	生涯学習課	C
55	各種教室の延べ参加者数	生涯学習課	C
④学習施設の整備			
56	図書館の入館者数	生涯学習課	B
57	図書館の貸出冊数	生涯学習課	B
⑤地域に密着した学習の場の提供			
58	地区公民館等の利用者数	生涯学習課	B
⑥生涯学習推進組織の整備			

⑦情報提供・相談機能の強化			
59	生涯学習課ホームページ更新回数	生涯学習課	A
⑧指導者の育成・人材活用			
60	読書ボランティア等登録者数	生涯学習課	B
61	【再掲No. 53】生涯学習人材バンクの登録者数	生涯学習課	D
⑨生涯学習を通じた地域づくり			
62	【再掲No. 50】夏休み子ども教室の回数（参加者数）	生涯学習課	B
⑩全ての人と共生する生涯学習の推進			
63	社会体育施設の障害者用トイレの整備	生涯学習課	A
(2) 文化の継承と振興			
①芸術・文化活動の推進			
64	公民館自主事業（舞台・演奏公演）の実施回数	生涯学習課	D
65	文化協会支援事業（文化祭・芸能大会等）	生涯学習課	B
66	市美術展覧会の入場者数	生涯学習課	B
②郷土の歴史・文化遺産の保存と継承			
67	文化財ボランティアガイド登録者数	生涯学習課	D
68	文化財啓発事業の実施回数	生涯学習課	B
69	小・中学校への出前講座の実施回数	生涯学習課	D
(3) 生涯にわたり親しみ高めあうスポーツの振興			
①生涯スポーツ・競技スポーツの推進			
70	市長杯等の参加者数	生涯学習課	B
71	スポーツ教室延べ開催数	生涯学習課	A
72	市民ウォーキング大会参加者数	生涯学習課	D
②スポーツ環境の充実			
73	体育施設（学校開放施設含む）の障害者用トイレ設置数	生涯学習課	B
74	ウォーキングコースの設定箇所数	生涯学習課	A
③スポーツ指導者の育成・人材活用			
75	スポーツ少年団認定指導員資格取得者数	生涯学習課	B

評価	判断基準
A	目標・計画どおりに取組を実施し、充分成果がでている。
B	目標・計画どおりに取組を実施し、ある程度成果がでている。
C	目標・計画どおりに取組を実施したが、あまり成果がでていない。
D	目標・計画どおりに取組を実施できなかった。

## 5. 成果指標の点検・評価結果

基本目標		1. 生きる力を育む就学前・学校教育の推進			
		(1) 保幼小中連携（一貫）教育の推進			
施策名		①保幼小中・家庭・地域連携（一貫）教育の推進			
整理No	1	担当課	学校教育課	評価	A
成果指標	交流活動を組織として位置付ける（よくできた、できたと回答した割合） ※教職員を対象とした連携についてのアンケート調査より				
平成27年度 （計画作成時）	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
31%	68%	82%	80%以上	102.5%	
取組概要	<p>昨年度同様、新型コロナウイルス感染症の影響による制限が生じたため、各中学校区では年間計画を変更しながらできる取組を実施している。年間2回実施の連携担当者会は、1回目は集合研修、2回目はオンライン形式による研修として開催し、各中学校区で工夫して取り組んできた内容の共有と次年度の計画を協議した。</p>				
課題 （今後の方向性）	<p>来年度県教育委員会指定の保幼小中連携モデル地域実践研究事業を活用し、連携担当者会、保幼小接続部会を有機的に連動させながら保幼小中の取組がより一層推進するよう取組を行っていく。</p>				
整理No	2	担当課	学校教育課	評価	B
成果指標	交流活動の際、育てたい力の共通理解（よくできた、できたと回答した割合） ※教職員を対象とした連携についてのアンケート調査より				
平成27年度 （計画作成時）	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
51%	50%	77%	80%以上	96.3%	
取組概要	<p>昨年度同様、新型コロナウイルス感染症の影響による制限が生じたため、各中学校区では年間計画を変更しながらできる取組を実施している。交流活動そのものを中止したり、制限に伴う変更をしたりしなければならない状況が生じたが、ICT機器を活用しながらできる範囲で交流活動を行ってきた。</p>				
課題 （今後の方向性）	<p>新型コロナウイルスの感染拡大防止に最大限努めながら、ICT機器も十分に活用して、本年度ベースの取組を進めるとともに、保幼小接続部会を活用してこれまで以上に保幼小の接続に向けた取組を推進していく。</p>				

基本目標	1. 生きる力を育む就学前・学校教育の推進			
	(2) 家庭や地域と連携した教育の推進 (チーム学校の取組)			

施策名		① 厳しい環境にある子どもたちへの支援			
整理No	3	担当課	学校教育課	評価	B
成果指標	香南市チャレンジ塾の開設数				
平成27年度 (計画作成時)	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
2教室	2教室	3教室	4教室	75.0%	
取組概要	<p>香南市内の全ての中学校3年生を対象に、10月1日から翌年2月末まで、毎週月曜日と水曜日の午後6時30分から8時30分まで、赤岡市民館、のいちふれあいセンターと香我美市民館の3カ所で教室を開き、英語と数学について学習を進め、高校進学を目指した学習を実施した。 赤岡教室：6人 野市教室：15人 香我美教室：23人</p>				
課題 (今後の方向性)	<p>支援員の確保が困難であり、募集の方法や時期について工夫することで、十分な支援員の確保を目指す。そのうえで教室を新たに開設することで目標数値の達成を目指す。</p>				
整理No	4	担当課	こども課	評価	C
成果指標	子育て親育ち講演会への参加者数				
平成27年度 (計画作成時)	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
596人	284人	184人	650人以上	28.3%	
取組概要	<p>香南市立の所・園ごとに企画した講演会と香南市全体の就学前の子どもを持つ保護者に向けた講演会を年間計画に沿って実施している。</p>				
課題 (今後の方向性)	<p>令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、講演会の開催回数及び参加者数が減少した。引き続き、新型コロナウイルス感染症対策を取りながら、保護者の参加数を増やせるよう、就学前の子育て世代にとって関心・ニーズの高い内容の構成と周知についても工夫が必要である。</p>				

施 策 名		②学校の組織マネジメント力の強化			
整理No	5	担当課	学校教育課	評 価	C
成果指標	学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、組織的に取り組んでいる学校の割合（「よく行っている」と回答した学校の割合） ※全国学力・学習状況調査（学校質問紙）結果より				
平成27年度 （計画作成時）	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校50.0% 中学校75.0%	小学校－ 中学校－	小学校42.9% 中学校75.0%	小学校70.0%以上 中学校80.0%以上	小学校61.3% 中学校93.8%	
取組概要	小・中学校では、企画運営部、研究推進部、生徒指導部（名称は各学校で異なる）等の各部署で協議されたことを、職員会や職員研修等の場を核として教職員で共有・確認しながら組織的に取り組んでいる。中学校は、「教科主任会」や「チーム長会」を設定し、企画部から運営部までのライン機能が働き、組織として取り組む土壌が整ってきている。				
課 題 （今後の方向性）	小中学校とも目標値に達成することができなかった。弱肯定も含めると小中学校共に100%となるが、「よく行っている」と回答しきれない理由や背景について検討し、改善に向けた取組を行っていく必要がある。				
整理No	6	担当課	学校教育課	評 価	C
成果指標	学力傾向や課題について、全教職員の間で共有している学校の割合（「よく行っている」と回答した学校） ※全国学力・学習状況調査（学校質問紙）結果より				
平成27年度 （計画作成時）	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校50.0% 中学校75.0%	小学校－ 中学校－	小学校0% 中学校50.0%	小学校100.0% 中学校100.0%	小学校0.0% 中学校50.0%	
取組概要	中学校では、各教科の「タテ」持ちや教科間連携の取組等による「教科会」「チーム会」の位置付けにより、組織的な取組を推進してきている。小学校では、各種学力調査等の分析を組織的に行う風土が随分整ってきているが、まだまだ学級担任や学年団の動きが中心の学校もある。また、若年教員の増加により教員間の指導力にもばらつきが認められる。				
課 題 （今後の方向性）	小中学校とも目標値に達成することができなかった。弱肯定も含めると小学校は100%、中学校75%となり、概ね良好な状況と言えるが、「よく行っている」と回答しきれない理由や背景について検討し、改善に向けた取組を行っていく必要がある。				

施策名		③不登校の改善			
整理No	7	担当課	学校教育課	評価	C
成果指標	不登校児童・生徒の割合（不登校児童・生徒数／総児童・生徒数）				
平成27年度 (計画作成時)	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校1.31% 中学校5.03%	小学校1.06% 中学校5.01%	小学校1.47% 中学校5.91%	小学校0.50%以下 中学校3.50%以下	小学校34.0% 中学校59.2%	
取組概要	不登校の児童生徒に対して、背景を把握し、中学校区ごとに配置したスクールソーシャルワーカーにより学校や関係機関と家庭をつなぐ等、きめ細かい対応を図っている。また不登校の未然防止のために、アンケートにより子どもたちの人間関係や意欲を把握し、一人ひとりに応じた学力向上の取組を進めている。				
課題 (今後の方向性)	不登校や不登校傾向にある子どもへの個別の対応を行いつつも、新たな不登校児童生徒を生みださない取組が必要である。今後も「未然防止」、「初期対応」、「自立支援」を行うなど3つの観点から児童生徒支援を行い、不登校の改善に向けた取組を進め、不登校児童生徒数の減少につなげていく。				

施策名		④子どもが育ちやすい地域コミュニティの再構築			
整理No	8	担当課	こども課	評価	B
成果指標	こうなんファミリーサポートセンター会員数				
平成27年度 (計画作成時)	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
30人 (H29.1.18現在)	102人	112人	150人以上	74.7%	
取組概要	ファミリーサポートセンター事業の周知を行い、会員数を増加させ事業の充実を図る。まかせて会員講習会の開催、会員同士の交流会の開催、ファミサポ通信の作成を行う。 令和3年度よりおねがい会員が初めて利用する際の利用料金を4時間まで無料とし、預かりに対する不安感の解消につなげ、利用促進を図っている。				
課題 (今後の方向性)	共働き家庭などのニーズは高まっているが、ボランティアのなり手が不足しており、まかせて会員数は伸び悩んでいる。また、マッチングに苦慮するケースや会員登録はしているものの活動にいたらない会員も多い。今後も社会福祉協議会と協働し、子育てに関して経験豊富な保育士OBに声かけを行うなど受け皿となるまかせて会員の確保に努める。また、感染予防対策を実施したうえで、子育て援助活動を継続していく。				

整理No	9	担当課	こども課	評価	A
成果指標	市の子育て情報サイトへのアクセス数				
平成27年度 (計画作成時)	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
—	8,798回	10,390回	6,000回以上	173.2%	
取組概要	<p>妊娠期から就学期までの、助成制度や子育て支援制度、子育ての悩み事や困った時の相談先、子育て関連情報を見やすくまとめてインターネット上のサイトに掲載している。また、普及の進んだスマートフォン用サイトへつなぐQRコードを設定し手軽にアクセスできるようにし、サイトの周知を図っている。また、スマートフォンアプリ「LINE」を活用した市のHPと連動した情報発信ツールの普及と合わせてサイトのリニューアルを行った。</p> <p>また、登録された子育て世帯には、メルマガとして「エプロンだより」と「すこやか通信」をメール配信し、各種健診や予防接種、育児学級など子育てに関するタイムリーな情報も提供している。</p>				
課題 (今後の方向性)	<p>子育て情報サイト「香南キッズ」の周知をこれまで以上に多くの場面で行うとともに、関連する部署と連携し内容の充実を図る。</p> <p>関連する部署と連携しながらニーズに応じた見やすい情報発信に努める。</p>				
整理No	10	担当課	学校教育課	評価	A
成果指標	地域学校協働本部設置数				
平成27年度 (計画作成時)	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
4校	11校	11校	11校	100.0%	
取組概要	<p>幅広い地域住民等の参画により、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、地域を創生する活動を行う「地域学校協働本部」を設置し、地域と学校とが連携・協働し、授業支援や放課後学習支援、登下校見守り、周辺環境整備等を実施している。</p>				
課題 (今後の方向性)	<p>令和2年度同様コロナ禍により、地域の方が学校内へ入って児童生徒と触れ合う活動は難しく少なくなっている。その中でも登下校の見守りやICT機器を利用した読み聞かせなど、各校が工夫しながらできる活動を実施している。地域の中での見守り等、接触が少なく多人数の対面ではない場面の工夫や積極的な情報発信等により、地域と学校の協働関係を維持していくことが重要である。</p>				



整理No	11	担当課	学校教育課	評価	A
成果指標	コミュニティ・スクール設置数				
平成27年度 (計画作成時)	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
0校	3校	11校	11校	100.0%	
取組概要	学校評議員の仕組みから学校運営協議会に移行していけるように、規則等の整備を行い、すべての小中学校にコミュニティ・スクールを導入する。				
課題 (今後の方向性)	学校運営協議会と地域学校協働本部の連携を更に進め、地域に開かれた特色のある学校づくりの構築を進める。				

施策名	⑤家庭の教育力の向上				
整理No	12	担当課	学校教育課	評価	C
成果指標	【再掲No.7】 不登校児童・生徒の割合（不登校児童・生徒数／総児童・生徒数）				
平成27年度 (計画作成時)	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校1.31% 中学校5.03%	小学校1.06% 中学校5.01%	小学校1.47% 中学校5.91%	小学校0.50%以下 中学校3.50%以下	小学校34.0% 中学校59.2%	
整理No	13	担当課	こども課	評価	B
成果指標	毎日朝食を食べる児童生徒の割合（3歳児）				
平成27年度 (計画作成時)	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
95.3%	96.4%	93.9%	98%以上	95.8%	
取組概要	新型コロナウイルス感染症の関係で、中止になった食育事業もあったが、参観日等を利用し、保護者に朝食やバランス食についての講話やこども達には朝食をテーマにした食育劇を実施するなど、食育事業に取り組み、啓発を行った。また、健康対策課と連携をとりパパママ教室や乳幼児健診などで、朝食摂取の啓発を行った。				
課題 (今後の方向性)	ライフスタイルの多様化もあり、料理の機会や経験が少ない親が増えているため、そこに対する意識付けが課題である。保護者の影響を受ける年齢であるため、健康対策課・保育・幼稚園等と連携を図り、食育事業、パパママ教室や乳幼児健診での指導、総合子育て支援センターでの栄養相談を継続して行い、その中で朝食について重点的に、生活リズムを含めた更なる啓発を行う。				

整理No	14	担当課	学校教育課	評価	B
成果指標	毎日朝食を食べる児童生徒の割合（小学校6年生・中学校3年生）				
平成27年度 （計画作成時）	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校87.3% 中学校91.8%	小学校95.7% 中学校93.2%	小学校95.9% 中学校91.0%	小学校96.0%以上 中学校94.0%以上	小学校 99.9% 中学校 96.8%	
取組概要	毎年度継続的に、給食指導時間における栄養教諭等による食育指導（食品と栄養素について、朝食摂取による効能・効果）や体育科・保健体育科、家庭科での栄養・保健の内容、基本的な生活習慣の内容の学習に加え、参観日等を活用し、保護者への啓発活動を行っている。				
課題 （今後の方向性）	小・中学校とも目標数値を下回る結果となった。生活習慣確立には時間がかかるため、今後も継続的に教科場面での指導、保健指導、食育指導等の様々な機会を通して、児童生徒に朝食摂取の意義を伝え、実践に結び付けるようにする。また、各種通信等も活用し、保護者等にも継続な啓発を行っていく。				
整理No	15	担当課	こども課	評価	C
成果指標	【再掲No.4】 子育て親育ち講演会への参加者数				
平成27年度 （計画作成時）	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
596人	284人	184人	650人以上	28.3%	
施策名	⑥放課後の子どもの生活・学習支援の充実				
整理No	16	担当課	こども課	評価	A
成果指標	放課後児童クラブの利用者数				
平成27年度 （計画作成時）	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
336人	377人	428人	385人	111.2%	
取組概要	放課後児童クラブを市内12カ所で開設し、共働き家庭等の児童（1～6年生）を対象として放課後から18時（一部18時30分）まで遊びや生活の場を提供し、子どもたちの健全育成の向上を図る。 ※R4.3月現在の入会児童は、野市小137人、佐古小85人、野市東小58人、赤岡小14人、香我美小63人、夜須小39人				
課題 （今後の方向性）	待機児童の生じていた野市小・香我美小で放課後児童クラブの新設工事を行ったことで、両小学校において当初入会時は待機児童の解消ができたが、佐古小学校区で待機児童が発生し、今後の受入定員の拡大対応が課題となっている。そのためにも、受け皿となる支援員の確保が引き続き最重要課題であり、ハローワークや広報誌などの媒体を使った情報発信をはじめ、あらゆる手段を講じて求人の開拓を行っていく。また、より柔軟な運営を図るため、支援員とともに雇用体系や運営体制などの協議を進め、令和4年度中に支援員と保護者の協力体制が整った組織に運営を委託する。				

整理No	17	担当課	こども課	評価	A
成果指標	放課後児童クラブ、放課後子ども教室の支援員等研修会実施回数				
平成27年度 (計画作成時)	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
6回	7回	12回	6回	200.0%	
取組概要	<p>放課後児童支援員及び補助員の資質向上を図るため、市主催の研修を実施するとともに、県等主催の研修に参加した。</p> <p>また、今年度は全国規模の研修がオンラインで開催されたことにより、インターネット環境が整備された児童クラブにおいては、Zoomを使用して研修を気軽に受講することができ、昨年度よりも受講機会が拡大された。</p>				
課題 (今後の方向性)	<p>延べ99人が研修会へ参加した。対面受講に限らずオンライン受講を活用し、今後も支援員のさらなる資質向上及びスキルアップを図っていく。</p>				

基本目標	1. 生きる力を育む就学前・学校教育の推進
	(3) これからの社会を生き抜く力を育む教育の推進

施策名	①就学前教育の充実				
整理No	18	担当課	こども課	評価	A
成果指標	市職員研修及び園内研修の実施回数				
平成27年度 (計画作成時)	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
52回	51回	68回	52回以上	130.8%	
取組概要	<p>様々な経験年数の職員が主体的に情報共有しあうため、園内研修会を中心に研修を行った。</p> <p>保幼職員研修会1回、副所属長・中堅保育者合同研修会1回、園内研修会68回、研究主任会3回</p>				
課題 (今後の方向性)	<p>オンライン形式による研修会を活用し、引き続き主体的な研修の実施を行い、保育・教育の質の向上につなげていく。</p>				

整理No	19	担当課	こども課	評価	B
成果指標	子育て支援センター利用者数（児童のみ）				
平成27年度 （計画作成時）	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
4,811人	5,173人	5,454人	7,000人以上	77.9%	
取組概要	総合子育て支援センター「にこなん」を中心に、就学前の児童及びその保護者（主として就園前の児童とその保護者）が相互の交流を行う親子の交流広場や子育てについての相談、情報の提供などの子育て支援を実施する。令和3年度も新型コロナウイルス感染症対策のため利用制限を設けて開設するなど工夫しながら事業を実施してきたため、利用者数が少なくなっている。				
課題 （今後の方向性）	就学前の保護者の子育てに対する不安感や悩みを軽減し、子育てに活かしていただけるよう、妊娠から出産、育児まで、関係機関と連携しながら切れ目のない子育て支援を目指す中で、「にこなん」を拠点とした相談体制の拡充や病後児保育などサービスを充実させることにより利用者の増加を目指す。引き続き、新型コロナウイルス感染症予防対策をしながら事業を継続する。				

施策名	②確かな学力の育成				
整理No	20	担当課	学校教育課	評価	C
成果指標	【再掲No.6】 学力傾向や課題について、全教職員の間で共有している学校の割合（「よく行っている」と回答した学校）				
平成27年度 （計画作成時）	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校50.0% 中学校75.0%	小学校－ 中学校－	小学校0% 中学校50.0%	小学校100.0% 中学校100.0%	小学校0.0% 中学校50.0%	
整理No	21	担当課	学校教育課	評価	A
成果指標	ICT機器を活用した校内授業研修を実施したか。				
平成27年度 （計画作成時）	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
75.0%	100%	100%	100%	100.0%	
取組概要	小中学校の各学級に電子黒板や書画カメラ、授業者用タブレットを整備し、児童生徒にも一人一台端末が整備されたことを契機に、これまで以上にICT機器を活用した授業を展開している。小学校においてはプログラミング教育推進のための校内研修、及び授業実践が全ての学校で実施されている。				
課題 （今後の方向性）	教職員のICT機器活用スキルの獲得に向けた3年間を見据えた計画を進行中である。現段階でも個人間のICT機器操作スキルに差があることから、授業場面や授業以外の場面で基礎的な活用から発展的・複合的な活用へと段階的に進めていく必要がある。学校内での校内研修等を活性化し、活用場面の共有を図っていく必要がある。				

整理No	22	担当課	学校教育課	評価	C
成果指標	<p>言語活動について、国語科だけでなく、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体で取り組んでいる学校の割合（「よく行っている」と回答した学校の割合） ※全国学力・学習状況調査（学校質問紙）結果より</p>				
平成27年度 （計画作成時）	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校37.5% 中学校0.0%	小学校－ 中学校－	小学校28.6% 中学校75.0%	小学校100.0% 中学校100.0%	小学校28.6% 中学校75.0%	
取組概要	<p>小中学校ともに、県指定事業や校内研修等各種研修の際には、新学習指導要領の趣旨の実現に向けた授業改善に向けた実践研究を行うとともに、言語活動の充実に向けた取組を推進するよう教職員で確認し、実践につなげているところである。</p>				
課題 （今後の方向性）	<p>小中学校とも目標を達成することができなかった。弱肯定を含めると小中学校とも100%であるが、新型コロナウイルス感染症への対応や若年教員の増加等に伴い、おそらく「よく行っている」という強肯定ほどの認識が持てないと予想される。引き続き、各学校の授業スタンダードに基づいた授業実践の際の徹底を図る。</p>				

施策名		③豊かな心の育成			
整理No	23	担当課	学校教育課	評価	A
成果指標	<p>自分にはよいところがあると思うか。（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合） ※全国学力・学習状況調査（児童・生徒質問紙）結果より</p>				
平成27年度 （計画作成時）	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校77.7% 中学校61.1%	小学校83.4% 中学校75.3%	小学校82.4% 中学校81.4%	小学校80%以上 中学校70%以上	小学校103.0% 中学校116.3%	
取組概要	<p>全ての小・中学校で、受容的で共感的な子ども理解を進めるとともに、「いいところ見つけ」などの子ども相互が認め合えるような取組や教員が児童生徒のよさや頑張りに対して肯定的な言葉をかける「ボイスシャワー」などの取組を継続的に行い自尊感情の高揚に向けた取組を行っている。</p>				
課題 （今後の方向性）	<p>小中学校とも目標を達成することができた。今後も新型コロナウイルス感染症への対応や若年教員の増加等の状況が続くことが予想されることや自尊感情の高揚には時間がかかることから、引き続き授業スタンダードに基づく、生徒指導の三機能が発揮された授業実践やポジティブや言葉かけをする取組の継続を図る。</p>				

整理No	24	担当課	学校教育課	評価	C
成果指標	将来の夢や目標を持っているか。（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合） ※全国学力・学習状況調査（児童・生徒質問紙）結果より				
平成27年度 （計画作成時）	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校88.9% 中学校64.5%	小学校85.2% 中学校80.2%	小学校78.3% 中学校67.1%	小学校95%以上 中学校70%以上	小学校82.4% 中学校95.9%	
取組概要	キャリア教育の視点も踏まえ、教科等の授業場面のほか、様々な教育活動の中で将来の夢や希望を持たせられるような指導支援を行っている。また、進路指導にもつなげることを意図し、校外学習（社会見学、生産者との交流等）や職場体験学習の実施している。				
課題 （今後の方向性）	小中学校とも目標を達成することができなかった。社会に開かれた教育課程を念頭に、各教科において、社会とつながる教材を意図的に開発したり、総合的な学習の時間等も活用しながら地域社会とつながる機会を増やしたりしながら、これまでの取組を継続させる。				

施策名		④キャリア教育の推進			
整理No	25	担当課	学校教育課	評価	C
成果指標	<b>【再掲No. 24】</b> 将来の夢や目標を持っているか。（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合） ※全国学力・学習状況調査（児童・生徒質問紙）結果より				
平成27年度 （計画作成時）	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校88.9% 中学校64.5%	小学校85.2% 中学校80.2%	小学校78.3% 中学校67.1%	小学校95%以上 中学校70%以上	小学校82.4% 中学校95.9%	
整理No	26	担当課	学校教育課	評価	—
成果指標	難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦しているか。（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合） ※全国学力・学習状況調査（児童・生徒質問紙）結果より				
平成27年度 （計画作成時）	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校78.8% 中学校68.3%	小学校 — 中学校 —	小学校 — 中学校 —	小学校85%以上 中学校80%以上	小学校 — 中学校 —	
取組概要	児童生徒理解のうえに実態に応じた課題を設定し、スモールステップで課題が解決ができるようにすることで多くの成功体験を味わわせ、以降の挑戦意欲が高まるような工夫を行ったり、児童が向上の変容を実感できるように学習の最後には振り返りの時間を設定したりするなど、全ての教育活動で児童生徒を支援する取組を実施している。				
課題 （今後の方向性）	日々の各教科等の学習場面や体験活動等の前と後には、目標設定する場面や振り返りをする場面を設定し、児童生徒が自己の成長を感じさせるような取組を行ってきているが、児童生徒一人ひとりの性格や特性が異なることもあり、長期的な取組として、継続していく必要がある。				

施 策 名		⑤人権教育の推進			
整理No	27	担当課	学校教育課	評 価	A
成果指標	人権教育について計画的に実施することができた学校数				
平成27年度 (計画作成時)	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
100%	100%	100%	100%	100.0%	
取組概要	各学校における人権教育全体計画、年間指導計画に基づき、11の課題について計画的、系統的に学習を展開するとともに、人権参観日等を実施し、保護者や家庭地域への普及・啓発を行う。				
課 題 (今後の方向性)	児童生徒の実態に合わせ、計画、実践、評価、改善を繰り返し、人権意識が高まるような授業実践、教育活動が展開していく。引き続き、児童生徒に身に付けさせたい力及び単元を通したゴールイメージをもった授業の展開が図れるよう研修を通して指導力の向上を目指す。				
整理No	28	担当課	学校教育課	評 価	C
成果指標	いじめが解消した割合 (いじめが解消した件数/いじめの認知件数) 注：解消は3か月の期間を目安としているため報告の段階で正確な確認ができない。				
平成27年度 (計画作成時)	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校67.3% 中学校90.9%	小学校76.6% 中学校76.3%	小学校70.0% 中学校39.5%	小学校90%以上 中学校92%以上	小学校 77.8% 中学校 42.9%	
取組概要	各学校でいじめの校内研修を実施し、子どもの些細な変化に気付けるよう日頃から目を向けている。また、「魅力ある学校生活アンケート」で実態把握し、未然防止や早期対応の取組を行っている。				
課 題 (今後の方向性)	教員はいじめに対してアンテナを張り、小学校でのいじめの認知件数は全国と比較して大幅に高い状態であり、初期段階のものも含めて積極的に認知している。中学校は認知件数から下がっており、認知のあり方から再確認が必要と思われる。解消は3か月の期間を目安としているため、解消率は低くなっているが、各学校で解消にむけて取組を続けている。				

施 策 名		⑥健やかな体の育成と健康の増進			
整理No	29	担当課	こども課	評 価	B
成果指標	【再掲No.13】 毎日朝食を食べる児童生徒の割合（3歳児）				
平成27年度 (計画作成時)	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
95.3%	96.4%	93.9%	98%以上	95.8%	
整理No	30	担当課	学校教育課	評 価	B
成果指標	【再掲No.14】 毎日朝食を食べる児童生徒の割合（小学校6年生・中学校3年生）				
平成27年度 (計画作成時)	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校87.3% 中学校91.8%	小学校95.7% 中学校93.2%	小学校95.9% 中学校91.0%	小学校96.0%以上 中学校94.0%以上	小学校 99.9% 中学校 96.8%	
整理No	31	担当課	学校教育課	評 価	A
成果指標	地域人材を活用しての料理教室などの取組を実施した学校数				
平成27年度 (計画作成時)	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
100%	63%	100%	100%	100.0%	
取組概要	新型コロナウイルス感染症の影響もあったが、全小中学校で取り組むことができた。食育改善委員やJAの方に来ていただき、お弁当作りや朝食作りに取り組むことができた。				
課 題 (今後の方向性)	小5朝食作り・中1お弁当作りは全校で取り組む予定だが、それ以外でも各校で食育に関する取組がされているが学校間で差がある。支援してくれる組織や人材の確保も難しい場合がある。 授業時間の確保が難しい中、ヘルスマイト・JA婦人部などの協力を得ながら、郷土料理教室などの開催を継続していく。				



整理No	32	担当課	学校教育課	評価	C
成果指標	肥満傾向率（小学校5年生）				
平成27年度 （計画作成時）	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
12.5%	16.8%	14.2%	10%以下	70.4%	
取組概要	給食時の栄養教諭による指導や体育科・保健体育科、家庭科等での指導のほか、始業前の時間や長い休み時間、体育集会などの場面を利用して運動機会の保障に向けた取組を企画運営するなど、年間を通じた取組を行っている。また、保護者に対しては、懇談会や通信等を通じて、基本的な生活習慣の定着に向けた取組の紹介や啓発を継続的に行っている。				
課題 （今後の方向性）	目標を達成することができなかった。コロナ禍にあり、運動時間や内容に一部制限があることも未達成の要因として考えられる。基本的な生活習慣と運動習慣の確立に向け、今後も継続的に取組を行っていく。体育・保健体育科の授業において、運動量が確保された授業づくりを目指す。				

施策名		⑦特別支援教育の推進			
整理No	33	担当課	こども課	評価	A
成果指標	個別の指導計画書を作成した保幼小中の割合（保育所・幼稚園）				
平成27年度 （計画作成時）	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
100%	100%	100%	100%	100.0%	
取組概要	支援の必要な園児の個別の指導計画は適切に作成している。				
課題 （今後の方向性）	引き続き支援の必要な園児についてはもれなく個別指導計画を作成していく。				

整理No	34	担当課	学校教育課	評価	A
成果指標	個別の指導計画書を作成した保幼小中の割合（小学校・中学校）				
平成27年度 (計画作成時)	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校60.0% 中学校28.3%	小学校－ 中学校－	小学校－ 中学校－	小学校100% 中学校100%	小学校－ 中学校－	
取組概要	<p>各学校ともに児童生徒の様子を把握し、短期目標、長期目標の達成に向け、作成ができています。また、特別支援教育アドバイザーの巡回訪問や研修会を通じて、個別の指導計画及び支援計画書について作成支援・指導を行ってきたので、個に応じた支援への成果が表れている。</p> <p>令和3年度は、高知県における特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する状況調査がなかったため、指標の割合について把握できていない。</p>				
課題 (今後の方向性)	<p>特別支援学級及び通級に在籍している児童生徒については個別の指導計画は作成しており、活用ができています。通常の学級に在籍している児童生徒で、個別の指導計画の作成を必要としている児童生徒についての作成は少しずつではあるが作成ができつつある。今後も個に応じた支援ができるよう取り組みを進めていく必要がある。</p>				
整理No	35	担当課	こども課・学校教育課	評価	A
成果指標	スマイルサポート支援ファイル及び支援シートを活用した引き継ぎの実施校数				
平成27年度 (計画作成時)	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
100%	100%	100%	100%	100.0%	
取組概要	<p>一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な指導や支援を行い、一貫した教育支援体制を構築するために作成・活用している。</p> <p>中学校入学前に「引き継ぎシート」の作成・活用を推進し、適切な支援方法について共有することで、中1ギャップを未然に防ぎ、円滑な教育支援の移行に取り組む。</p>				
課題 (今後の方向性)	<p>対象となるすべての子どもに対して支援ファイル及びシートを作成し、引継ぎが行われている。教育支援計画との関連性を検討し、より効果的なものにしていく必要がある。</p>				

基本目標	1. 生きる力を育む就学前・学校教育の推進
	(4) きめ細かな教育の推進

施策名		①教職員の専門性・指導力の向上			
整理No	36	担当課	学校教育課	評価	A
成果指標	授業の内容がよくわかると回答した児童生徒の割合（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合）【国語】 ※全国学力・学習状況調査（児童・生徒質問紙）結果より				
平成27年度 （計画作成時）	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校85.0% 中学校63.7%	小学校－ 中学校－	小学校89.9% 中学校77.9%	小学校85%以上 中学校70%以上	小学校105.8% 中学校111.3%	
取組概要	県指定事業・研修のほか、東部教育事務所指導主事による要請訪問等を最大限に活かして、授業改善に取り組んでいる。新学習指導要領の趣旨を目指して、校内研修、教科会・チーム会等で協働して組織的な取組を進めてきている。				
課題 （今後の方向性）	小中学校とも目標を達成することができた。授業改善に向けた組織的な取組が進んできており、児童生徒の受け止めも良好であるといえる。しかしながら、現状に満足せず今後も各種事業・研修会等を活かして、教職員の主体性と同僚性を発揮して「チーム学校」として、取り組んでいく必要がある。				
整理No	37	担当課	学校教育課	評価	A
成果指標	授業の内容がよくわかると回答した児童生徒の割合（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合）【算数・数学】 ※全国学力・学習状況調査（児童・生徒質問紙）結果より				
平成27年度 （計画作成時）	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校87.1% 中学校60.3%	小学校－ 中学校－	小学校89.6% 中学校76.1%	小学校87%以上 中学校70%以上	小学校103.0% 中学校108.7%	
取組概要	県指定事業・研修のほか、東部教育事務所指導主事による要請訪問等を最大限に活かして、授業改善に取り組んでいる。新学習指導要領の趣旨を目指して、校内研修、教科会・チーム会等で協働して組織的な取組を進めてきている。				
課題 （今後の方向性）	小中学校とも目標を達成することができた。授業改善に向けた組織的な取組が進んできており、児童生徒の受け止めも良好であるといえる。しかしながら、現状に満足せず今後も各種事業・研修会等を活かして、教職員の主体性と同僚性を発揮して「チーム学校」として、取り組んでいく必要がある。				

施 策 名		②保育所・学校運営の充実			
整理No	38	担当課	学校教育課	評 価	A
成果指標	【再掲No. 10】 地域学校協働本部設置数				
平成27年度 (計画作成時)	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
4校	11校	11校	11校	100.0%	
整理No	39	担当課	こども課・学校教育課	評 価	C
成果指標	保育所・学校評議員連絡会（中学校区）の開催数				
平成27年度 (計画作成時)	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
2中学校区	1中学校区	1中学校区	4中学校区	25.0%	
取組概要	夜須小学校と夜須中学校は、合同で評議員会を開催したが、他の中学校区では開催していない。 それぞれの保育所・学校単位では、評議員会を開催している。				
課 題 (今後の方向性)	香南市保育所・学校評議員連絡会として、平成29年度までは中学校区ごとの意見交換の場を設けていたが、学校規模の違いなどから協議が難しいとの意見が出たことから平成30年度から協議の時間を設けていない。 小・中学校については、令和3年度から学校運営協議会に移行した。				
整理No	40	担当課	学校教育課	評 価	A
成果指標	【再掲No. 11】 コミュニティ・スクール設置数				
平成27年度 (計画作成時)	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
0校	3校	11校	11校	100.0%	

施策名		③生徒指導の充実			
整理No	41	担当課	学校教育課	評価	C
成果指標	<b>【再掲No.5】</b> 学校運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、組織的に取り組んでいる学校の割合（「よく行っている」と回答した学校の割合） ※全国学力・学習状況調査（学校質問紙）結果より				
平成27年度 （計画作成時）	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校50.0% 中学校75.0%	小学校－ 中学校－	小学校42.9% 中学校75.0%	小学校70.0%以上 中学校80.0%以上	小学校61.3% 中学校93.8%	
整理No	42	担当課	学校教育課	評価	A
成果指標	学校に行くのは楽しいと思うと回答した児童生徒の割合（「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」回答した割合）				
平成27年度 （計画作成時）	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校86.4% 中学校72.9%	小学校91.5% 中学校87.0%	小学校91.3% 中学校85.5%	小学校90.0% 中学校80.0%	小学校101.4% 中学校106.9%	
取組概要	「魅力ある学校づくり調査研究事業」を引き続き、年2回の担当者会を実施し、全小・中学校で取組を進めてきた。各学年で意識項目を決め、PDCAシートを作成し、新たな不登校を生まない未然防止に向け取り組みを進めている。日頃から子どもたちの声に耳を傾け、一人一人のよさや頑張りを認め、すべての児童生徒にとって「心の居場所」「絆づくりの場」となる学校を目指して取り組んでいる。				
課題 （今後の方向性）	小学校では目標数値を1.3ポイント上回り、中学校も5.5ポイント上回る結果となった。しかし、学級・学年によっては偏りが見られるので、今後もすべての児童生徒にとって「心の居場所」「絆づくりの場」となる学校を目指して取組を進めていく必要がある。				

施策名		④教育相談・支援体制			
整理No	43	担当課	学校教育課	評価	C
成果指標	<b>【再掲No.7】</b> 不登校児童・生徒の割合（不登校児童・生徒数／総児童・生徒数）				
平成27年度 （計画作成時）	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校1.31% 中学校5.03%	小学校1.06% 中学校5.01%	小学校1.47% 中学校5.91%	小学校0.50%以下 中学校3.50%以下	小学校34.0% 中学校59.2%	

基本目標	1. 生きる力を育む就学前・学校教育の推進
	(5) 安全な教育環境での教育の推進

施策名		①防災教育等の推進			
整理No	44	担当課	こども課・学校教育課	評価	A
成果指標	多様な状況での避難訓練を計画的に実施できたか。				
平成27年度 (計画作成時)	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
保幼100% 小中100%	保幼100% 小中100%	保幼100% 小中100%	保幼100% 小中100%	100.0%	
取組概要	火災や不審者対応の避難訓練のほか、地震・津波災害に対応する避難訓練においても、緊急地震速報を活用したり、授業中、休み時間、登下校中等多様な状況設定の下で、年間3回以上実施している。				
課題 (今後の方向性)	それぞれの園や学校の実態に適した、より実践的な避難訓練、高い当事者意識を持った児童生徒による避難訓練の実施に向け、発展継続させた取組が必要である。今後も、それぞれの園や学校の実態に適した、より実践的で高い当事者意識を持った避難訓練の実施に向け、発展継続させた取組が必要である。				
整理No	45	担当課	学校教育課	評価	A
成果指標	学校安全プログラムを活用した年間5時間以上の防災教育が実施できたか。 【学校安全チェックリスト(県調査)】				
平成27年度 (計画作成時)	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
100%	100%	100%	100%	100.0%	
取組概要	年度当初の教育計画に防災教育の年間計画を位置づけ、発達段階に応じて学校安全プログラムを活用した年間5時間以上の授業を実践している。				
課題 (今後の方向性)	年間指導計画に基づき、着実な学習を進める必要がある。防災については、各学校等の立地環境により避難行動が変わることから、発災前、発災時、発生後等の時間軸や沿岸部、平野部、山間部等の平面軸で場面を設定し、より具体的で自分事として思考できるような学習の質の向上を目指していく必要がある。				

施策名		②保育所、幼稚園、小・中学校の環境整備			
整理No	46	担当課	学校教育課	評価	A
成果指標	小・中学校における非構造部材の耐震化				
平成27年度 (計画作成時)	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
50%	100%	100%	100%	100.0%	
取組概要	令和2年度に野市小学校の非構造部材耐震化Ⅱ期工事が完了した。これにより市内全ての小・中学校における非構造部材の耐震化が完了した。				
課題 (今後の方向性)	計画的に耐震化工事を実施したことにより目標を達成した。 今後は個別施設計画に基づき、適正な施設管理を行い、修繕や改修等を要した場合は速やかに対応する。				
整理No	47	担当課	学校教育課	評価	A
成果指標	小・中学校におけるトイレの洋便器化				
平成27年度 (計画作成時)	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
50%	100%	100%	100%	100.0%	
取組概要	令和元年度に野市中の洋便器化工事が完了し、全ての小・中学校の洋便器化が完了した。				
課題 (今後の方向性)	計画的に工事を実施し、目標を達成した。 適正な管理を行い、修繕等を要した場合は速やかに対応する。				

整理No	48	担当課	こども課・学校教育課	評価	A
成果指標	通園・通学路の点検を定期的に行ってきたか。				
平成27年度 (計画作成時)	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
保幼100% 小中100%	保幼100% 小中100%	保幼100% 小中100%	保幼100% 小中100%	100.0%	
取組概要	<p>小・中学校では、年1回通学路の安全点検を実施し、危険箇所については香南市通学路安全対策連絡協議会で合同点検を行い対策を講じた。</p> <p>保育所・幼稚園では現在、保護者の送迎による通園となっており、児童の通園路という概念がなくなったことから、指標から除外する。ただし、保育所・幼稚園の活動中（お散歩など）で通る道路や、避難経路及び駐車場から施設までの通路等の点検は定期的に行っている。</p>				
課題 (今後の方向性)	危険箇所については、香南市通学路安全対策連絡協議会及び関係機関と連携し、危険の周知及び対策を迅速に実施する。				
整理No	49	担当課	学校教育課	評価	A
成果指標	学校内の施設等に関する安全点検が定期的に行ってきたか。				
平成27年度 (計画作成時)	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
100%	100%	100%	100%	100.0%	
取組概要	教職員による毎月1回の定期点検を継続的に実施した。				
課題 (今後の方向性)	今後も毎月1回の安全点検を引き続き実施していく。				



基本目標	2. 生き生きと学ぶ生涯学習の推進			
	(1) 生涯にわたり豊かな心を育む環境づくり			

施策名		①ライフステージに対応した学習の充実 (家庭教育・学校教育・社会教育)			
整理No	50	担当課	生涯学習課	評価	B
成果指標	夏休み子ども教室の回数(参加者数)				
平成27年度 (計画作成時)	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
21講座 (299人)	0講座 (0人)	19講座 (240人)	25講座 (310人)	回数76.0% 参加者数77.4%	
取組概要	<p>学校以外での子どもの学習・体験活動の機会の創出・拡充のため各公民館で主に小中学生対象の夏休み教室を開催している。</p> <p>令和3年度は、新型コロナウイルス感染症対策として定員数の削減を行い実施した。</p> <p>中央公民館で9講座(125人)、夜須公民館で8講座(106人)、香我美市民館で2講座(9人)。</p>				
課題 (今後の方向性)	<p>学年・男女に関係なく参加できることを念頭に置いて開催しているが、開催地でない赤岡・吉川からの参加者が少ない。</p> <p>今後の取組みとして、各学校へのPRを強化し更なる参加を促す。また、市民館等での出張教室の開催について検討する。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症の懸念が続くことを想定し、少数開催や、オンライン教室の手法などを考案し実施する。</p>				
整理No	51	担当課	生涯学習課	評価	C
成果指標	三世代交流事業参加者数(凧揚げ等)				
平成27年度 (計画作成時)	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
1,000人	44人	328人	1,000人	32.8%	
取組概要	<p>青少年育成事業として三世代交流凧揚げ大会・三世代交流事業等を開催している。コロナ禍ではあったが、感染対策を十分に行い凧揚げ大会(約300人参加)、親子交流事業として親子パークゴルフ大会(28人参加)を実施した。</p> <p>地域密着型の三世代交流により、地域活性化を推進する。</p>				
課題 (今後の方向性)	<p>現在行っている凧揚げ大会や親子パークゴルフ大会などは屋外事業で天候によって参加者数の変動が大きいため、今後参加者のニーズを把握し雨天対策や雨天時に代替となる屋内活動の検討など行っていく必要がある。</p>				

施策名		②生きがいを得る学習機会の充実			
整理No	52	担当課	生涯学習課	評価	B
成果指標	いきいきセミナーの開催回数				
平成27年度 (計画作成時)	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
4講座	0講座	2講座	4講座	50.0%	
取組概要	<p>市民の学習意識を高めるため、各種分野からテーマを選定した上で著名人を含めた4回の講演をセミナーとして開催する計画であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、開催途中で中止となった。</p> <p>いきいきセミナーの開催 2回/4回  第1講座 夜須公民館「杉山文野さん」 99人受講  第2講座 ふれあいセンター「森岡浩さん」 117人受講  第3講座 ふれあいセンター「山崎正雄さん」 中止  第4講座 夜須公民館「安藤桃子さん」 中止</p>				
課題 (今後の方向性)	<p>受講者からのアンケート結果を参考に来年度の講師を決定するが、実施回数や講演内容を含め、公民館運営委員に図りながら、市民のニーズに応じていくように再度、検証が必要である。ライブ配信も検討する。</p>				
整理No	53	担当課	生涯学習課	評価	D
成果指標	生涯学習人材バンクの登録者数				
平成27年度 (計画作成時)	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
0人	28人	26人+3団体	200人	14.5%	
取組概要	<p>様々な分野において豊富な経験や資格を持っている市民や団体の情報を「人材バンク」に登録し、市民の生涯学習活動や学校活動における教育活動等を支援するために、指導者やボランティアとして紹介する制度。愛好会など3つの団体が登録となった。</p>				
課題 (今後の方向性)	<p>依頼内容等の住民向けの広報活動（ボランティアの内容などを含め広報やHPでの周知）をはじめ、この制度や活動内容の周知を継続して実施していく。</p> <p>文化・スポーツ団体ごとに個別に説明をする場を設け実施していく。</p>				

施 策 名		③現代的課題に対応した学習機会の充実			
整理No	54	担当課	生涯学習課	評 価	C
成果指標	各種教室の開催回数				
平成27年度 (計画作成時)	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
161回	57回	94回	170回	55.3%	
取組概要	<p>子どもから高齢者まで、様々なテーマに基づき教室を開催している。また、地域講師を中心に、人材育成につながる教室も開催している。</p> <p>令和3年度は、新型コロナウイルス感染症対策として定員数の削減を行い実施した。しかし、県内の感染者の増加に伴い、やむを得ず教室の中止になったものもあった。中央公民館47回、夜須公民館39回、香我美市民館6回、セミナー（市民大学）2回</p>				
課 題 (今後の方向性)	<p>より多くの方に参加してもらえるように、ニーズを把握した上での内容・講師選定を行い、公民館ごとの連携、広報手段の見直しをする必要がある。</p> <p>各公民館間で予定している内容や講師の情報共有をして、協力して市としての講座の在り方を検討する必要がある。</p>				
整理No	55	担当課	生涯学習課	評 価	C
成果指標	各種教室の延べ参加者数				
平成27年度 (計画作成時)	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
4,530人	1,552人	1,894人	4,700人	30.4%	
取組概要	<p>子どもから高齢者まで、様々なテーマに基づき教室を開催している。また、地域講師を中心に、人材育成につながる教室も開催している。</p> <p>令和3年度は、新型コロナウイルス感染症対策として定員数の削減を行い実施した。しかし、県内の感染者の増加に伴い、やむを得ず教室の中止になったものもあった。中央公民館1,060人、夜須公民館543人。香我美市民館73人、セミナー（市民大学）218人</p>				
課 題 (今後の方向性)	<p>より多くの方に参加してもらえるように、ニーズを把握した上での内容・講師選定を行い、公民館ごとの連携、広報手段の見直しをする必要がある。加えて、感染症対策を行い、安心して参加してもらえる環境づくりに取り組む。各公民館間で予定している内容や講師の情報共有をして、協力して市としての講座の在り方を検討する必要がある。</p>				

施 策 名		④学習施設の整備			
整理No	56	担当課	生涯学習課	評 価	B
成果指標	図書館の入館者数				
平成27年度 (計画作成時)	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
68,825人	44,425人	49,505人	80,200人	61.7%	
取組概要	<p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、8月21日から9月3日まで臨時休館とした。9月より学校図書館への図書配送や、児童クラブへの図書定期配送開始により、児童・生徒の読書機会拡大につなげた。また、静寂読書室の設置、SNS（LINE・インスタグラム）の最大活用による情報発信などにより、利用者の利便性の向上を図ることができた。</p>				
課 題 (今後の方向性)	<p>感染状況の終息を見据えた再度の取り組み強化と、一時的に中止されていたイベントや講座を再開させることで、入館者数の回復、増大を図る。更に、サピエ図書館への利用登録により、障害者向けの録音図書・再生機器の貸出を開始し、図書館機能の充実や利用者のサービス向上を図っていく。</p>				
整理No	57	担当課	生涯学習課	評 価	B
成果指標	図書館の貸出冊数				
平成27年度 (計画作成時)	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
116,714冊	107,577冊	115,487冊	130,000冊	88.8%	
取組概要	<p>コロナ禍においても貸出冊数の増加を目指し、出来る限りのイベントを開催、また、定期的なミニ企画展の開催等を実施した結果、貸出冊数については感染症拡大以前のレベルまで回復させることができた。</p>				
課 題 (今後の方向性)	<p>図書館の利用者にとって利用価値の高い蔵書構成に努めるとともに、インスタグラムでの新刊案内等の情報発信や、学校・児童クラブへの図書配送の更なる充実化を図り、貸出冊数増加につなげる。</p>				

施 策 名		⑤地域に密着した学習の場の提供			
整理No	58	担当課	生涯学習課	評 価	B
成果指標	地区公民館等の利用者数				
平成27年度 (計画作成時)	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
40,622人	21,192人	26,107人	42,000人	62.2%	
取組概要	<p>地域の集まりの中心となる地区公民館を維持し、公民館活動を支援していく。</p> <p>令和3年度は、新型コロナウイルス感染症対策として施設の定員数を削減し実施した。</p> <p>佐古防災コミュニティセンター 4,294人、富家防災コミュニティセンター 4,262人、みどり野東公民館 1,951人、手結会館 234人、北部会館 177人、香我美地区各公民館 15,189人</p>				
課 題 (今後の方向性)	<p>地域により高齢化や実践行事で公民館の利用状況は異なるが、今後も各地区の公民館運営協議会やまちづくり協議会と連携していく。</p>				

施 策 名		⑥生涯学習推進組織の整備			
成果指標	成果指標の設定なし				

施 策 名		⑦情報提供・相談機能の強化			
整理No	59	担当課	生涯学習課	評 価	A
成果指標	生涯学習課ホームページ更新回数				
平成27年度 (計画作成時)	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
13回	56回	101回	50回	202.0%	
取組概要	<p>図書新刊情報、各種教室・大会案内やスポーツ大会の結果報告等の更新を実施している。</p>				
課 題 (今後の方向性)	<p>今回は、大会等の中止のお知らせを頻繁に行ったことにより回数は目標値を超えたが、図書館の新刊情報以外の住民に対する開催等のお知らせは、20回程度であった。</p> <p>大会開催前後に情報更新しているが、市民により分かりやすい内容で最新情報を常に更新するよう取り組んでいく。</p>				

施 策 名		⑧指導者の育成・人材活用			
整理No	60	担当課	生涯学習課	評 価	B
成果指標	読書ボランティア等登録者数				
平成27年度 (計画作成時)	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
76人	52人	60人	100人	60.0%	
取組概要	読書ボランティア養成講座の休止や高齢化、住居移転によるボランティア団体からの退会などで登録者数が減少している。育成のための講座等は早期に復活させ、再度の取り組み強化を図る。				
課 題 (今後の方向性)	読書ボランティア養成講座の講座内容の見直しを行い、幅広く人材を募集、各ボランティア団体への入会促進にて登録者数アップにつなげて行く。				
整理No	61	担当課	生涯学習課	評 価	D
成果指標	【再掲No.53】 生涯学習人材バンクの登録者数				
平成27年度 (計画作成時)	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
0人	28人	26人+3団体	200人	14.5%	

施 策 名		⑨生涯学習を通じての地域づくり			
整理No	62	担当課	生涯学習課	評 価	B
成果指標	【再掲No.50】 夏休み子ども教室の回数(参加者数)				
平成27年度 (計画作成時)	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
21講座 (299人)	0講座 (0人)	19講座 (240人)	25講座 (310人)	回数76.0% 参加者数77.4%	

施 策 名		⑩全ての人と共生する生涯学習の推進			
整理No	63	担当課	生涯学習課	評 価	A
成果指標	社会体育施設の障害者用トイレの整備				
平成27年度 (計画作成時)	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
5箇所	7箇所	8箇所	8箇所	100.0%	
取組概要	目標8カ所のうち、障害者用トイレを整備可能な施設6カ所についてはすべて整備済み。				
課 題 (今後の方向性)	設置スペースが確保できないなど、設置不可能な施設2カ所については洋便化を行い、目標値を達成している。				

基本目標	2. 生き生きと学ぶ生涯学習の推進
	(2) 文化の継承と振興

施 策 名		①芸術・文化活動の推進			
整理No	64	担当課	生涯学習課	評 価	D
成果指標	公民館自主事業（舞台・演奏公演）の実施回数				
平成27年度 (計画作成時)	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
6事業	0事業	1事業	6事業	16.7%	
取組概要	公民館活動として日頃鑑賞できない舞台・演奏公演を企画し、文化意識の向上を図るものとして計画していたが、新型コロナウイルスの影響で多くが中止となり、夜須公民館でアート体験コーナーやロビーコンサートを複数盛り込んだ複合イベントを1回開催できた。				
課 題 (今後の方向性)	子ども向けの企画も含め、市民のニーズをしっかりと把握し、より関心の高い内容を企画し実施していく。				

整理No	65	担当課	生涯学習課	評価	B
成果指標	文化協会支援事業（文化祭・芸能大会等）				
平成27年度 （計画作成時）	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
14事業	3事業	9事業	14事業	64.3%	
取組概要	市民の文化活動を高めるため、文化協会が関わる展示や芸能の文化祭活動、その他大会を支援する。				
課題 （今後の方向性）	新型コロナウイルス感染状況や感染防止策を考慮しながら、各町単位の文化協会は文化祭を企画し行った。今後も引き続き状況をみながら大会実行委員会及び文化協会と連携して文化祭活動の取り組み、支援を行う。				
整理No	66	担当課	生涯学習課	評価	B
成果指標	市美術展覧会の入場者数				
平成27年度 （計画作成時）	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
1,264人	1,451人	1,144人	1,500人	76.3%	
取組概要	写真、書道、絵画、工芸などの愛好者の作品発表と鑑賞の機会のため、展覧会を開催する。 新型コロナウイルス感染症の感染予防対策を実施しながら、令和4年1月に前期・同2月に後期を開催した。				
課題 （今後の方向性）	令和3年度は前年と同様、コロナ感染予防対策を実施しながら開催した。出品者が高齢になってきている現状はそのままであるが、部門によっては、新規の方や高校生などの出品もあった。昨年度に引き続き今年度も継続して、県内の高校・大学・専門学校等に出品の依頼を行い、出品者の若返りを図りたいと考える。				



施 策 名		②郷土の歴史・文化遺産の保存と継承			
整理No	67	担当課	生涯学習課	評 価	D
成果指標	文化財ボランティアガイド登録者数				
平成27年度 (計画作成時)	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
42人	10人	10人	50人	20.0%	
取組概要	<p>香南市文化財を広く伝えていくため、ボランティアガイドを養成し、ガイドの登録を増やしていく。</p> <p>国重要文化財安岡家住宅の一般公開が始まり、公開前に1～2回打ち合わせを行ってガイドの充実を図っている。また広報等でボランティア募集をしている。</p>				
課 題 (今後の方向性)	<p>計画作成時のボランティアガイド登録者数のうち実働している者が当時から少なく、なおかつ高齢化等の理由で活動が難しくなっていたことから、令和2年度に国重要文化財安岡家住宅の一般公開に向け再編成を行ったため登録者数が減少した。</p> <p>今後もボランティアガイドの募集を呼びかけ、実働できる人材を養成する。(現在はガイド全員が実働している)</p>				
整理No	68	担当課	生涯学習課	評 価	B
成果指標	文化財啓発事業の実施回数				
平成27年度 (計画作成時)	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
7回	4回	7回	10回	70.0%	
取組概要	<p>文化財の重要性を後世に啓発していくため、遺跡発掘調査説明会、夏休み文化財教室、文化財講座などを実施していく。</p> <p>安岡家住宅一般公開2回、文化財講座・文化財めぐり・出前講座・子ども文化財教室等を行った。</p>				
課 題 (今後の方向性)	<p>新型コロナウイルス感染防止対策のためこども文化財教室はYouTube配信としたり、安岡家住宅一般公開を中止する回があった。今後も新型コロナウイルスの感染状況を鑑みながら、香南市文化財に関し市民に向けての各種教室や講座を展開し、体験活動や周知啓発活動の取組を進める。</p>				

整理No	69	担当課	生涯学習課	評価	D
成果指標	小・中学校への出前講座の実施回数				
平成27年度 (計画作成時)	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
2回	1回	0回	5回	0.0%	
取組概要	市内の文化財や戦争遺産などを後世に伝え残していくため、小・中学校への出前講座等を実施する。				
課題 (今後の方向性)	戦争遺産などを解説し平和について考える講座を希望する小・中学校へ講師を派遣しているが、講師の確保等の状況により積極的な事業周知が行えない場合がある。また学校からの要望が得られるように各種教室の開催や出前講座について、さらに周知をしていく。				

基本目標	2. 生き生きと学ぶ生涯学習の推進
	(3) 生涯にわたり親しみ高めあうスポーツの振興

施策名	①生涯スポーツ・競技スポーツの推進				
整理No	70	担当課	生涯学習課	評価	B
成果指標	市長杯等の参加者数				
平成27年度 (計画作成時)	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
480人	729人	372人	590人	63.1%	
取組概要	<p>参加者が競い合うことにより技能の一層の向上が期待できると認められる各種スポーツにおいて、参加者数など一定の大会規模を満たす大会に市長杯を付与することで、スポーツへの関心、参加者の増加、技能の向上などを図っている。</p> <p>令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、一部の大会が中止となったことで前年度と比較して参加者数が減少している。</p>				
課題 (今後の方向性)	運営者や競技者の高齢化により大会の維持が難しくなっている競技種目もある。また、参加者数は年度により変動があるが、競技人口はいるので周知徹底し参加を促していく必要がある。				

整理No	71	担当課	生涯学習課	評価	A
成果指標	スポーツ教室延べ開催数				
平成27年度 (計画作成時)	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
179回	496回	595回	180回	330.6%	
取組概要	<p>こうなんスポーツクラブへ委託し、市民ニーズを把握したうえで指導競技の内容や回数など企画立案し、教室活動を実施する。</p>				
課題 (今後の方向性)	<p>今後も市が力を入れるスポーツ、生涯活動に効果的な対象者を見極めるため、こうなんスポーツクラブと連携してニーズを把握し、事業を実施していく。また、スポーツ人口の拡大を図るため、軽スポーツを新たに取り入れる。</p>				
整理No	72	担当課	生涯学習課	評価	D
成果指標	市民ウォーキング大会参加者数				
平成27年度 (計画作成時)	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
80人	0人	0人	290人	0.0%	
取組概要	<p>高齢者でも気楽に行えるウォーキングを通し運動習慣を身につけてもらえるように健康ウォーキング大会やツデーウォーク大会を開催する。 令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、ツデーウォークと健康対策課主催の健康ウォーキング大会が中止になった。</p>				
課題 (今後の方向性)	<p>健康対策課で各町2つの推奨コースマップが完成したことで、健康ウォーキング大会は毎年場所を変えながら実施していく。ツデーウォークは香南市民の参加が非常に少ないため、今後周知方法や参加料などの見直しを検討していく。</p>				

施 策 名		②スポーツ環境の充実			
整理No	73	担当課	生涯学習課	評 価	B
成果指標	体育施設（学校開放施設含む）の障害者用トイレ設置数				
平成27年度 （計画作成時）	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
8箇所	11箇所	12箇所	17箇所	70.6%	
取組概要	<p>障害者のスポーツ活動を促進するため、社会体育施設、学校開放施設に障害者用トイレを計画的に整備する。目標17カ所のうち、障害者用トイレを整備可能な施設10カ所についてはすべて整備済み。  設置スペースが確保できないなど、設置不可能な施設7カ所中2カ所の洋便化を完了した。（令和3年度は未実施）</p>				
課 題 （今後の方向性）	<p>利用状況にもよるが、現状の施設内で障害者用トイレのスペースを確保できない場合は、障害者用トイレにはならないが、和式トイレの洋便器化を図っていく。  学校開放施設の整備が進んでいない。各学校と、利用団体と調整を図り整備計画の見直しを図る。</p>				
整理No	74	担当課	生涯学習課	評 価	A
成果指標	ウォーキングコースの設定箇所数				
平成27年度 （計画作成時）	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
6コース	10コース	10コース	10コース	100.0%	
取組概要	<p>高齢者でも気楽に行えるウォーキングを通して運動習慣や健康増進を推進するため、健康対策課で各町ロング・ショートの2コースを設定（平成30年度に設定済み）し、パンフレットを作成して、啓発を行っていく。</p>				
課 題 （今後の方向性）	<p>健康ウォーキング大会時に健康対策課が作成したコースマップを活用して、啓発を継続的に行っていく。</p>				

施 策 名		③スポーツ指導者の育成・人材活用			
整理No	75	担当課	生涯学習課	評 価	B
成果指標	スポーツ少年団認定指導員資格取得者数				
平成27年度 (計画作成時)	令和2年度	令和3年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
64人	84人	72人	75人	96.0%	
取組概要	<p>スポーツ少年団の育成指導にあたる「スポーツ少年団認定員」を増やしていくことで、技能の向上を図っていく。          スポーツ教室及び各種スポーツ大会の開催や各種スポーツクラブの育成支援する。</p>				
課 題 (今後の方向性)	<p>各団体に2名以上のスポーツ少年団認定員が必要で、その確保とあわせ、団員数が多い団体へは更に手厚く指導できる体制を構築していくため、認定員の資格取得を促す必要がある。          今後の取組みとして、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・競技種目において認定指導員のばらつきがあり、今後の安定した指導者確保のために、各団体と連携し講習等の案内を周知していく。</li> <li>・各団体へ県スポーツ少年団からの認定講習会情報日程を流し講習会への参加を呼びかけ、取得を促す。</li> <li>・令和5年度には、認定員制度が廃止になり新たな資格になるため、資格移行手続きの周知を行っていく。</li> </ul>				

## 6. 学識経験者からの意見

### (1) 評価の分類構造と方法について

本報告書は、令和3年度の香南市教育委員会の活動実績を、外部評価委員として客観的に精査し、評価したものである。令和2年度と同様にコロナ禍で、教育活動全般が思うに任せない状況の中で、全体評価ができる状況まで達したことは、当該教育委員会が日常的にその活動を真摯に取り組んできたであり、昨年と同様に、まず持ってこの点を讃えておきたい。

さて、報告書の評価を全体にわたって記述する前に、今年度の評価に特徴的な事項を紹介しておく。まず第一に、過去四年前までに遡って実施してきた実地視察が復活し、長い間コロナ禍で実地視察なしの評価となっていたが、今年度から生涯学習機関の施設が中心ではあったが、一定のウイルス対策をしておけば、日常的な視察も可能なことが証明されたことは喜ばしいことである。教育委員会の評価については、当然のことであるが、教育現場を丁寧に視察し、現場の意見を伺うところから始めなければ科学的な評価とは言い難いので、今年度からの評価からこれまでのシステムが踏襲、復活できたことを素直に喜ぶとともに、関係各位のご協力に感謝したい。なお、実地視察の詳細については、関係項目の中で後述する。

次に、報告書の内容については、昨年までと同様に教育委員会内の活動と管理執行事務を記述した項目分類として、「1. 教育委員会の活動」、「2. 教育委員会が管理・執行する事務」と題された部分と、「3. 管理・執行を教育長に委任する事務」の教育制度全般を運営する事項の評価に大別されている。

なお、後者の教育制度管理運営・執行に関する評価についても、従来通り学校教育制度に関わる部分と生涯学習制度に関わる部分の「成果の指標の点検・評価」に分類され、それぞれ結果の一覧表とその詳細記述部分が付加されている。ここまでは、昨年までとほぼ同様の自己点検・評価の記述方法を踏襲している。

昨年までの評者のコメントを活かして、革新した点がある。まずは、「3）これからの社会を生き抜く力を育む教育の推進」において「重点取組事項」に「③学習活動におけるICT活用の推進」という項目が加わったことである。昨年の評価でこの点は強調しておいた故、重点化していただいたことは市の子どもたちにとって喜ばしいことである。また、「4）きめ細かな教育の推進」においても、「⑤教職員の働き方改革の推進」項目が新規に付加された。これについても、昨年度の評価で繰り返し、重点化をお願いしていたので、やっと重要施策課題として位置付けられたことを素直に喜ぶたい。

また、教育委員会は昨年度から各大項目の後に、「[評価]」項目を新規に設定し、質的な評価記述を新たに加えている。これは、外部評価委員として一昨年度までに要望した内容を汲んで、真摯に対応し、新しい評価の質的視点を加えて教育委員会の諸活動をレベルアップしようとする取組であり、継続的に改善を持続する姿勢は高く評価しておきたい。

全体を俯瞰すると、今年度も昨年までとほぼ同様の評価項目が踏襲されてきており、A～Dのアルファベット評価と数値評価の方法が定着し、一般読者にもわかりやすい指標を継続的に使用していることは評価できる。上述したが、昨年より重点課題についても指摘された項目について付加され、これまでよりはわかりやすく記述している。これも改善点として認められる。

また、客観的な評価を推進する意味からも、数値による評価と年次経過の段階を見据えて、実行率何パーセントという数値の明示を継続していることも高く評価できる。しかしながら、昨年度指摘した内容について、特に目標値に対する達成度を継続的に記述している点は

評価できるが、「10年ごとの教育振興基本計画を考え合わせると、中間位置の5年あるいは最終目標設定年の10年間目標値に照らした到達点も見えやすくすべきではないか」という指摘については、まだ改善の余地がある。特に、次の十年を見据えて教育振興基本計画を立案する際には、この作業が重要となる。

詳細は後述するが、一例を挙げると50ページの「②確かな学力の育成」という項目の中で、整理No.20の「学力傾向や課題について、全教職員の間で共有している学校の割合（『よく行っている』と回答した学校）」という項目はC評価であるが（昨年は、評価は「一」無しという意味）、整理No.21の「ICT機器を活用した校内授業研修を実施したか」という評価項目では、令和元年、2年、3年度は100パーセントの達成度となっており、評価は前年度と同様Aのままで継続している。だが、個別最適化学習への転換が急務となっている学校の学習課題が全教職員に共有され、その取組課題が共通に見出され「C」評価であれば、ICT研修の数値が100パーセントの達成度であっても、そのままA評価が2年連続で継続することになって良いのであろうか。機器は子どもたちの学習の進化のために、使いこなされているのか、甚だ疑問である。また、ICTの機器活用は、児童生徒の自主的な学習活動が進展するように教師が方向性を見定めた上で活用すべきであり、あくまでも児童生徒が主体的に使いこなせるレベルを見据えて対応すべきである。目標が教師の運用能力に偏っているが、児童生徒の視点で評価すべきであろう。この点では、これらの数値的評価と質的記述評価に一定の乖離があるとみられても仕方ないし、100パーセントという評価とA評価はうわべ、表面のみの評価とみられる恐れがある。昨年度の評価と同様に、教師中心の授業形態から、子どもの学習中心への移行について、いっそうその内実がどのように反映したのかわかる評価へ改善すべきであろう。この点は、引き続き、評価内容の充実と再検討が期待される。

このように、評価・点検の中心となる「管理執行を教育長に委任する事務」の内容については、質と量の評価が十分に内容実態に沿っていることが求められることから、記述や分類の方法に一層の工夫を凝らす方向性について再考する必要がある点は、昨年度と同様に指摘しておかねばならない。

以上のように、従来の評価を改善したり、新重点課題の付加など、高評価を与えられる部分も多いが、上記のように経年比較による評価の解釈が曖昧な部分がまだ残されている。

今年度も、昨年度と同様に、強調しておかなければならない点がある。それは、衆目の一致するところであるが、令和3年度もコロナ禍のために令和2年度と同様に、クラスターの発生や感染者の急増が高知県下でも年に三度も発生したため、特別に考慮しなければならない点が多々ある。

特に、当然のことであるが、評価の数値やA～Dのアルファベット評価値は下がる傾向が否めないし、その数値と評価点だけをみて分析することはコロナ禍の状況に照らして、昨年同様適切ではあるまい。この点、評価を試み、これらの文章を参考にして、今後の教育に取り組む課題を負う方々には特に注意を喚起しておきたい。ただし、昨年度と異なる点を強調しておくとして、このコロナ禍の状態は、常態化する可能性が高く、このような状況が持続しても、市内における子どもたちの学習が進化できるように教育委員会は新しい執行形態を求め続ける必要があり、そのことが評価に反映する必要があるということを強調しておきたい。

「4. 成果指標の点検・評価結果一覧表」で見ると、学校教育全般の評価である「1. 生きる力を育む就学前・学校教育の推進」項目では、前年度の評価よりアルファベット評価が下がった（例えばA→Bのように）例が3項目に及ぶ（昨年度は10項目）。また、生涯学習全般の項目を扱っている「2. 生き生きと学ぶ生涯学習の推進」項目では、同様に評価の下がった項目が3項目である（昨年度は13項目）。

また、逆に、一昨年度との比較で評価が上がった例（例えばB→Aのように）項目は、それぞれ5項目と、7項目である。一見、昨年度との比較で見ると上がりが見られ、かなり善戦しているように見える。しかし、ここでは、一昨年のコロナ禍のパニック状態に比して、この状況が持続的対応を必要とする事態が明らかになったことを考え合わせると、先般の記述のようにコロナ禍の中でも不断に学習を継続していける条件整備を新たに構築すべきであり、その推進力こそを教育関係者は新たに身につけて子ども達と市民の成長発達をしていく必要があることも考え合わせると、それほど手放しで喜んでばかりはいられない。

さて、記述のような観点を十分に踏まえた上で、市の教育状況を鑑み、これらの諸点はどのように検討され、評価が実施されているか、以下の項目で分析評価してみよう。

## (2) 評価

### 1) 教育委員会の活動と教育委員会が管理・執行する事務について

これらの項目については、実際の活動記録となっており、例年通り活動の実態を記述一覧している。特段、問題なく、事実関係の羅列と実際の活動記録となっていることは従来の記述方式を踏襲しており、格段に新しい記述や羅列の方式に改める必要は無いと考えられる。

先の「評価の分類構造と方法」について既述したように、今年度から記述の評価が付加され、評価の実態がわかりやすくなっている点は評価できる。特にこの項目でも、一昨年のコロナ禍の研修については「計画されていた研修が全て中止になった」状況とは違って、今年度は「オンライン研修も徐々に増え」などの評価が見られるようになったのはよかった。ただし、その内容はもう少し質的評価を明確にすべきであろう。

委員会の開催回数や協議内容が時代の求める状況に応じて、どのように評価・点検されるべきかということも含めて、昨年度と同様の指摘となるが、次年度以降は記述や分類の方法を少し改善することも求められよう。

特に、10年に一度の教育振興基本計画を立案するプロセスに入っていることから、市民の要望や、これまでの施策実施についての市民のコメントなどを集めることもICTの普及によって必要となるであろう。この点では、次年度からのイノベーションに期待したい。

### 2) 管理・執行を教育長に委任する事務

この項目は、従来通り学校教育制度の管理・執行に関わる部分と生涯学習制度の管理・執行に関わる部分に大別されている。

これらを項目ごとに評価すると、第一部の学校教育制度に関わる部分では、今年度は全49項目にわたって詳細な記述と数値の評価・点検、また目標達成度が明示されている。詳細を示すと、それぞれA評価が25項目（昨年度は18項目）、B評価が8項目（昨年度は15項目）、C評価が15項目（昨年度は5項目）、D評価が0項目（昨年度は2項目）、未評価1項目（昨年度は9項目。コロナ等で評価が困難であった項目）となっている。一見して理解できるように、全体に評価がAとCは増え、Bの数値は下がっているが、前述した通りコロナ禍の影響によるものが多く、教育委員会の力不足とは言えない。ただし、これらの評価から将来的に何を学んで、今後活かすかについては、再考の余地がある。



なお、令和2年度とほぼ同じ項目で評価していることから、二カ年の経年評価をみると、A評価からB評価に下がった項目が0項目、逆にB評価からA評価に上がった項目が4項目ある。B評価からC評価に下がった項目は3項目で、逆にC評価からB評価に上がった項目は0である。ここでは、全体に評価の上がり下がりに一喜一憂すべきではなく、繰り返しになるが、この状況をどう判断し、ここから何を学ぶかが重要である。

特に、これまで教育委員会が長年取り組んで来た地域における連携、学校諸機関の連携、中でも保幼小中連携教育の推進する諸活動については、昨年同様高い評価が与えられているが、極めて正当な評価で、これらの活動がコミュニティスクールの設置という項目で集約され、継続的にどちらもA評価となっている。

ただし、前項目でも記述したが、これらの評価は数字のみを見ると正当なものに見えるが、その質については、後に詳述したい。

また、生涯学習制度の管理・執行に関わる部分では、それぞれ同様にA評価が4項目（昨年度は5項目）、B評価が13項目（昨年度は3項目）、C評価が3項目（昨年度は7項目）、D評価が6項目（昨年度は9項目）となっている。ここでも、一見して評価は全体的にCとD評価が減少傾向にあり、実践的目標値をクリアしているように思われる。評価が下がった項目は3項目で、上がった項目は7項目に及んでいる。

この状況をどのように評価すれば、コロナ禍の継続という情勢においても正当な評価となりうるであろうか。昨年度は、以下のように記述し、分析していた。

「この点で、明確に読み取れる事実は、香南市の生涯学習・教育部門は、今回のようなコロナ禍の影響を受けやすい管理構造にあり、インフラや、全体の管理運営構造を含めて危機対応に備えた機器の準備や、ICT環境の構築、また運用対応が十分になされておらず、今後長期的にコロナ禍と向き合っていかなければならない我が国の状況からすると、短期、中期、長期的に南海トラフの地震対策のような構造的な目標設定と改善が必要となっているということである。特に、昨年度までも継続的に目標が達成されず、一定放置された状態になっている項目であった「生涯学習人材バンクの登録者数」、「文化財ボランティアガイドの登録者数」など、今後の生涯学習を支える人材育成に関わる項目が軒並み低評価であったことは、ハード面での脆弱さに加えてソフトの面でも将来に不安を残している。これは、人口が長期的に減少し、少子化が進み、市の教育を生涯にわたって支えるには教育関係の専門職では心許ない状態で有り、市民参加による教育活動の支援が不可欠の状態から判断すると、余りにも低レベルの到達度と言わざるを得ない。今回のコロナ禍における評価の著しい減少傾向を教訓に、次年度以降の対応を見守りたい。」

昨年度の上記のコメントは、市の将来的な教育発展を願う立場から、これまで少し厳しい評価をしてきたが、令和3年度の数値の評価全体を量と質で振り返ってみると、学校教育制度に関わる事項では、コロナ禍の中では一定の成果を達成しており、また、生涯学習制度の事項においても、総体的に一定の水準を守って対応できたとも評価してよいであろう。

というのは、先述した実地視察の内容を含めて、この点を補足しておこう。今年度、先述したように過去におこなっていた実地視察後に教育委員会の外部評価を行うシステムが復活した。その視察対象は、コロナ禍の状況もあり、学校教育機関は避け、生涯学習機関を中心におこなった。具体的に述べると、9月30日に丸一日かけて、子育て支援センター、図書館、公民館、文化財センターを視察し、関係者との懇談を経て、詳細な分析を行う機会を得た。ここに記して、関係者の皆様には厚く御礼申し上げる次第である。さて、その評価を全体的に記述しておくとして、これらの4つの機関、施設は、過去三年前に比して、かなりIC

T環境が整い、コロナ禍の中でも需要が上がり、しかも利用率や満足度も高くなっていた。これらの実地視察だけで、市教委管轄下のすべての機関の評価を行うことはできないが、着実に進化しており、コロナ禍の中にあっても一昨年度とは違って、それぞれの機関と施設が自分達の役割を地道に果たしている一端が伺えた。

ただし、さらに子細に分析してみるとどうであろうか。特に、制度の運用管理面の質的側面をみる。近年、香南市の教育課題で強調されるのは、不登校児童生徒数の削減や、基礎学力の定着、また教職員の働き方改革を含めた学校マネジメント力の一層の向上、生涯学習制度の一層の推進などの問題である。これらの教育課題に絞ってみると、昨年度、今年度とA評価が多くなっていることが分かる。コロナ禍の継続状況にありながら、よく対応していると思われる。しかし、この点では本評価者は、昨年度と同様に香南市の二つのコミュニティスクールの運営協議会の委員として、これらの活動を支えてきたことから、運営協議会を通じたコミュニティスクールの活性化は未だ途上であり、特に運営協議会の全体的な実行力が不足しており、学校の全般的改善にもなかなか繋がっていないと思われる。特に、各学校が抱える問題や課題を運営協議会で話し合い解決の方向性を議論しても、2、3年経ってもなかなか事態は進展しておらず、根幹であり権限も付されている予算財政権限もなかなか実地まで至っていない。つまり、その質を担保した評価になっておらず、表面的数値のみの評価基準では、意味をなさない時点まで事態は展開してきていると思われる。この点では、今後さらに質的評価をどのように付加し、全体を改善目標に近づけるか再考を促したい。昨年度も同じ記述をしたが、この点は次の教育振興基本計画の内容に継続すべき案件と思われる。

また、詳述の質的内容を合わせて分析すると、これらの課題項目については一層の努力を必要とする記述が多数見られることも前年と同様である。特に、生涯学習制度の側面では、人材バンク項目を中心に推進できていない課題も多く、記述欄にもこれらの課題を再び明示している箇所が目立つ。

G I G Aスクール構想については、昨年同様に、子どもの教育活動面だけでなく、ICTを教職員間で一層活用し、高いレベルで教育条件を整備できるように評価するための「自己点検・評価」の仕方を、新設することを切にお願いしておきたい。特に、次年度には子どもたちが自宅にタブレット端末を自由に持ち帰り、家庭間格差が解消に進み、一層の個別最適化学習の進展が見られることを期待したい。

### (3) 総評

昨年度同様に、各論で述べてきたことを若干繰り返すことにもなるが、全体的な委員会活動を評価する際には、その時々的重要な課題があり、また併存してルーティンワークとして維持・発展させていかなければならない課題項目が存在する。

今後の市の教育状況の一層の発展を祈念しつつ、昨年度の指摘と一部重複するが、以下の諸項目を重点課題として評価するような項目立てを検討していただきたい。

- ① 香南市がめざしている地域に開かれた、コミュニティスクールの創設と学校運営協議会の活動の発展、また生涯学習機関を支える市民活動や、ボランティア活動の充実発展に関わる項目の創設と詳細な評価を期待する。特に、学校運営協議会の発展のための評価項目の付設。
- ② 将来の人口減少、少子化傾向が変化することは困難であることから、教育の質を担保すべく、学校の適正規模の推進項目の新設。また、災害や南海トラフ大地震に備えた学校の制度的保障を何年かけて実施し、各年度ではどこまで達成していくのか等の年次計画と項目ごとの評価を作成し、市民の協力の下で新しい評価を行うこと。（昨年度の評価と同項目）

- ③ G I G Aスクール構想が実施されたことによる、児童生徒の自己学習の進展と、教職員のICT利用による働き方改革の指標化を評価する項目立て。

今年度も、昨年度と同様にコロナ禍にあつて、教育委員会の支援活動、指導助言活動の推進は困難を極めた。その中であつて、香南市の教育委員会は本当によく教育成果を維持、発展されたと衷心より感謝いたします。今後の教育委員会の自己点検・評価活動の一層の発展に期待いたします。

以上

外部評価委員 高知工科大学教授 中村直人